

令和 7 年度学生生活実態調査
調査報告書

目次

1. はじめに
2. 結果報告書

はじめに

学生の皆さん、学生生活実態調査にご協力いただきありがとうございました。またお忙しい中、調査項目の作成、集計データの解析をしていただきました高等教育研究開発センターの中里陽子先生、伊藤奈賀子先生には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

さて4年に1回の調査でしたが、回答率が全体で19.6%と低く、残念な結果となりました。それでも、「経済状況」、「学生生活」、「進路や就職活動」、「経験したトラブル、ハラスメント」等の質問において、以下のようにいくつか興味深いデータを得ることができました。

- ① 学部1年生の8割がサークルに所属していた。ただし、学年進行とともに減少していた。
- ② 日本学生支援機構の貸与型奨学金（第一種、第二種）の受給者は3人に1人程度、給付型奨学金受給者は5人に1人程度であった。
- ③ アルバイトをしている学生が、学部2年と3年で8割を超えていた。
- ④ 学部1～4年および修士課程においては、ChatGPTをはじめとした生成AIを「頻繁に利用した」および「ときどき利用した」が8割程度を占めていた。
- ⑤ その利用目的としては「授業時間外の授業課題や予習復習」、次いで「個人的な趣味活動」であった。
- ⑥ これまで経験したトラブルとして最も多くあがっていたのは「バイト先での金銭や労働条件のトラブル」であった。また「大麻・危険ドラッグなど薬物を勧められた」をあげた者が数名いた。

大学としては学生の皆さんが有意義な学生生活を送れるように、今回の調査結果を基に対応を検討していきます。また何か困ったことや悩んでいること、相談したいことがありましたら、「なんでも学生相談室」や各部局の「学生相談窓口」を訪ねてください。その一歩を踏み出すことを躊躇しないでください。我々はいつでも皆さんを応援しています。

学生生活担当学長補佐

2025 年度学生生活に関するアンケート 結果報告書

2026 年2月

I 調査概要

(1) 実施目的

学生の学生生活および生活意識等を調査することで、今後の大学における学生支援の充実を図る上での基礎資料とすること。

(2) 実施期間および実施方法

2025 年 10 月 20 日～12 月 12 日、manaba を活用した Web アンケートを実施し、回答を収集した。

(3) 対象者

学部生および大学院生

(4) 回答者数(回答率)

■学部生

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	その他	合計
法文学部	回答者数	162	88	73	55			3	381
	回答率	38.7%	21.3%	16.7%	11.4%			6.0%	21.1%
教育学部	回答者数	69	55	37	39			1	201
	回答率	35.2%	27.5%	18.5%	17.0%			7.7%	24.0%
理学部	回答者数	52	23	37	19			1	132
	回答率	27.8%	12.4%	15.4%	10.1%			16.7%	16.3%
医学部医学科	回答者数	38	16	13	7	2	14	0	90
	回答率	30.6%	13.7%	11.6%	5.4%	1.7%	12.1%	0.0%	12.4%
医学部保健学科	回答者数	53	34	37	9				133
	回答率	43.8%	28.3%	31.1%	7.6%				27.8%
歯学部	回答者数	18	14	4	10	1	7	0	54
	回答率	32.7%	24.6%	8.5%	19.6%	1.6%	17.1%	0.0%	17.0%
工学部	回答者数	173	79	131	65			1	449
	回答率	34.5%	15.5%	28.8%	14.6%			1.2%	22.5%
農学部	回答者数	79	18	21	10			0	128
	回答率	43.2%	9.8%	9.7%	4.2%			0.0%	14.7%
水産学部	回答者数	40	10	44	6			0	100
	回答率	28.4%	7.1%	25.1%	4.0%			0.0%	16.4%
共同獣医学部	回答者数	22	8	6	0	0	3	0	39
	回答率	35.5%	12.1%	19.4%	0.0%	0.0%	9.7%	0.0%	15.5%
共通教育 ※科目等履修生のみ	回答者数							1	1
	回答率							12.5%	12.5%
合計	回答者数	706	345	403	220	3	24	7	1708
	回答率	35.5%	17.3%	19.8%	10.7%	1.4%	12.8%	3.1%	19.6%

■大学院生

		博士前期課程 (修士課程)	博士後期課程 (博士課程)	専門職 学位課程	その他	合計
人文社会科学研究科	回答者数	10	3		3	16
	回答率	16.7%	12.0%		7.7%	12.9%
教育学研究科	回答者数			10		10
	回答率			29.4%		29.4%
保健学研究科	回答者数	14	5			19
	回答率	27.5%	18.5%			24.4%
理工学研究科	回答者数	91	8		0	99
	回答率	15.1%	19.0%		0.0%	15.3%
農林水産学研究科	回答者数	26			0	26
	回答率	12.2%			0.0%	11.4%
医歯学総合研究科	回答者数	9	11		0	20
	回答率	25.7%	4.3%		0.0%	6.7%
臨床心理学研究科	回答者数			5		5
	回答率			15.6%		15.6%
共同獣医学研究科	回答者数		0			0
	回答率		0.0%			0.0%
連合農学研究科	回答者数		2			2
	回答率		1.9%			1.9%
合計	回答者数	150	29	15	3	197
	回答率	15.6%	5.9%	22.7%	4.5%	12.4%

II 結果概要

1. 回答者の属性

- 【1-1. 住居形態】 学部生、修士課程において、最も多かったのは「一人暮らし」。博士課程では「実家暮らしまたは家族と同居」と「一人暮らし」が同程度(38.7%)、専門職課程では「実家暮らしまたは家族と同居」が多い。
- 【1-2. サークル所属状況】 現在サークルに所属している者の割合が最も多かったのは学部1年(81.7%)。学部5・6年を除くと、学年が上がるにつれて、サークルに所属していない者が増える傾向がみられる。
- 【1-3. 奨学金受給の有無】 日本学生支援機構の貸与型奨学金(第一種、第二種)の受給者は全体で 33.2%。日本学生支援機構の給付型奨学金受給者は全体で 19.7%。

2. 経済状況

- 【2-1. アルバイトについて】 学部1～4年および修士課程では、アルバイトを現在している者の割合がしていない者の割合よりも多かった。特に多かったのは学部2年と3年で、8割を超えていた。学部5・6年および博士課程では、アルバイトを現在していない者が多い。
- 【2-2. アルバイト収入の使途】 全体として最も多くあげられたのは「娯楽、嗜好品」、次いで「衣食住のための生活費」「貯金」。博士課程では「授業料」、専門職課程では「授業料以外の学習費」をあげるものが特に多かった。

3. 本学への思いと学生生活について

- 【3-1. 大学への登校日数】 今学期の1週間あたりの大学への登校日数(平均)が、最も多かったのは学部1年および2年で4.8日、最も少なかったのは学部4年で3.4日。
- 【3-2. 学習や学生生活について】 学部1年や4年では、“勉強に関する本を読んでもすぐに飽きてしまう”と回答する者の割合が他学年と比べて多い。また、学部1年は“必要な単位以外でも、関心のある授業をとるようにしている”に対して否定的な回答をした者が半数を超えていた。“授業の課題の提出が遅れたり、出さなかったりすることがある”についても、学部1年で該当する者の割合が他学年に比べて多かった。
- “学生生活で打ち込むものがない”“大学の中で自分の居場所がないと感じる”について、あてはまると回答した者の割合は全体として少なかったものの、あてはまると回答した者の割合が最も多かったのは学部2年であった。
- “将来の目標や卒業後の進路について不安を感じる”について、あてはまると回答した者の割合が学部1年から4年で多く、半数以上を占めていた。中でも特に多かったのは学部2年(72.2%)。
- 【3-4. 本学の設備や学生支援制度に対する満足度】 インターネットの使いやすさについて、不満を示す者の割合が最も多く、半数を超えていた。
- 【3-5. 生成 AI 利用頻度】 今学期、ChatGPTをはじめとした生成 AI を利用したと回答する者の割合が全体として多かった。学部1～4年および修士課程においては、利用した者の割合が8割程度を占めていた。
- 【3-6. 生成 AI の主な利用状況】 生成AIの利用状況について、全体として最も多くあがっていた

のは「授業時間外の授業課題や予習復習時」、次いで「個人的な趣味活動中」。学部4年以上については「授業時間外の授業課題や予習復習時」をあげる者は少なく、「研究活動中」「就職活動中」をあげる者の割合が比較的多かった。

【3-10. 海外留学希望の有無】 学部1年では「留学したいが、できないと思う」、学部2～4年や修士課程、博士課程では「留学したいと思わない」、学部5, 6年や専門職課程では「わからない、考えたことがない」と回答する者がそれぞれ最も多かった。

【3-11. 留学生との交流状況】 学部1年では「留学生と交流したいが機会がない」、学部2年、3年、5, 6年、専門職課程においては「わからない、考えたことがない」、学部4年、修士課程、博士課程では「大学入学後に留学生と交流したことがある」と回答する者がそれぞれ最も多かった。

4. 進路や就職活動について

【4-1. 卒業後の進路(学部生)】 最も多かったのは「就職する」。学部1～4年で60%程度、5・6年においては80.8%を占めていた。次いで多かったのは「本学の大学院に進学する」であった。

【4-2. 進路(大学院生)】 修士課程においては「民間企業」(60.6%)、博士課程および専門職課程においては「教員」が、それぞれ最も多かった。博士および専門職課程では「社会人としての経験があり、修了後に元の職場に復職」が次いで多かった。

【4-3. 第1希望の就職地域】 第1希望の就職地域として最も多くあがったのは「九州内(鹿児島県外)」、次いで「鹿児島県(本土)」。特に学部5, 6年および専門職課程において「鹿児島県(本土)」をあげる者の割合が多かった。また、専門職課程については「関東地方」をあげる者も特に多かった。

5. 悩みや、これまで経験したトラブル、ハラスメントについて

【5-1. 現在の悩み】 現在の悩みとして、全体で最も多くあげられていたのは「進路や就職のこと」、次いで「生活費やお金のこと」「授業やレポート等勉学上のこと」。学部4年、修士課程、博士課程では「研究活動のこと」が特にあげられており、博士課程では「生活費やお金のこと」も多くあげられていた。学部3年では「進路や就職のこと」が多くあげられていた。

【5-2. 悩みの相談相手】 悩みの相談相手として、全体で最も多くあがっていたのは「友人」、次いで「家族」。「相談していない」と回答した者の割合も24.2%いた。大学院生においては「大学の教員」をあげる者が特に多かった。

【5-3. 相談できる学生の数】 授業や学生生活について情報交換をしたり、相談しあったりできる本学の学生について、「1人もいない」と回答した者の割合は非常に少なく、少なからず1人以上はいると認識している者が多く占めていることがうかがえる。

【5-4. 相談できる教職員の数】 授業や学生生活についてわからないことを尋ねたり、相談したりできる本学の教員や職員はどのくらいいるか尋ねたところ、学年が上がるにつれて「1人もいない」と回答する者の割合が減る傾向が示されていた。「1人もいない」と回答する者の割合は比較的多かったのは、学部1年で41.8%、学部2年で30.1%であった。

【5-5. 大学入学後に経験したトラブル】 大学入学後、学内外でトラブルにあったことがあるかを尋

ねたところ、経験したトラブルとして最も多くあがっていたのは「バイト先での金銭や労働条件のトラブル」であった。「大麻・危険ドラッグなど薬物を勧められた」をあげた者の割合は数値としては極めて低いものの、学部2年(2名)が経験したと回答していた。

【5-6. 学内でハラスメントを受けた経験】 学内でハラスメントを受けた経験の有無について、学部生は95%以上が「ない」と回答していた。修士課程、博士課程においては、「ある」と回答した者の割合が一定数いた。

【5-7. 学内で経験したハラスメントの種類】 学内で受けたハラスメントの種類についてその他を除いて、「アカデミックハラスメント」が最も多くあげられていた。

【5-8. 学内で経験したハラスメントの場面】 どのような場面で学内のハラスメントを受けたかを尋ねたところ、最も多くあげられていたのは「授業・実習中」、次いで「ゼミや研究活動中」も多くあげられていた。

【5-9. 誰からハラスメントを受けたか】 どのような人からハラスメントを受けたかを尋ねたところ、最も多くあげられていたのは「教員」であった。次いで、「サークルのメンバー」もあげられていた。

【5-10. ハラスメントに関する相談相手】 学内で経験したハラスメントについて誰かに相談したかを尋ねたところ、最も多くあげられていたのは「友人」、次いで「相談していない」であった。

【5-11. ハラスメントの解決状況】 学内で受けたハラスメントは現在解決しているかを尋ねたところ、多くの学年で「解決した」と回答する者が多かったが、博士課程のみ「解決していない」と回答した者の割合の方が多かった。

Ⅲ 結果（項目別）

1. 回答者の属性

1-1. 住居形態

学部生、修士課程において、最も多かったのは「一人暮らし」であった。博士課程については「実家暮らしまたは家族と同居」と「一人暮らし」が同程度(38.7%)、専門職課程については「実家暮らしまたは家族と同居」が多い傾向を示していた。

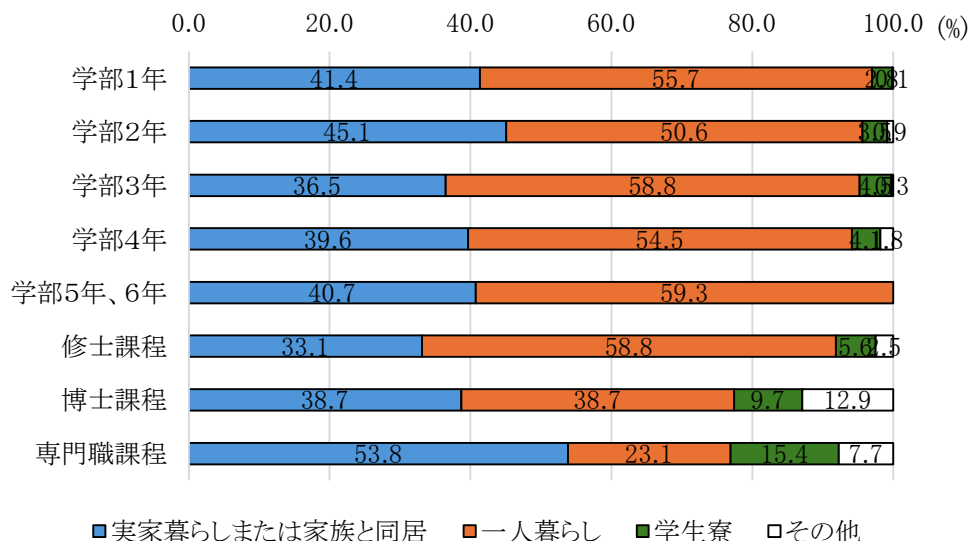


図 1-1 住居形態

1-2. サークル所属状況

サークルに「現在所属している」と回答した割合が最も多かったのは学部1年で、81.7%を示していた。学部5・6年を除くと、学年が上がるにつれて、サークルに所属していない者が増える傾向がうかがえる。

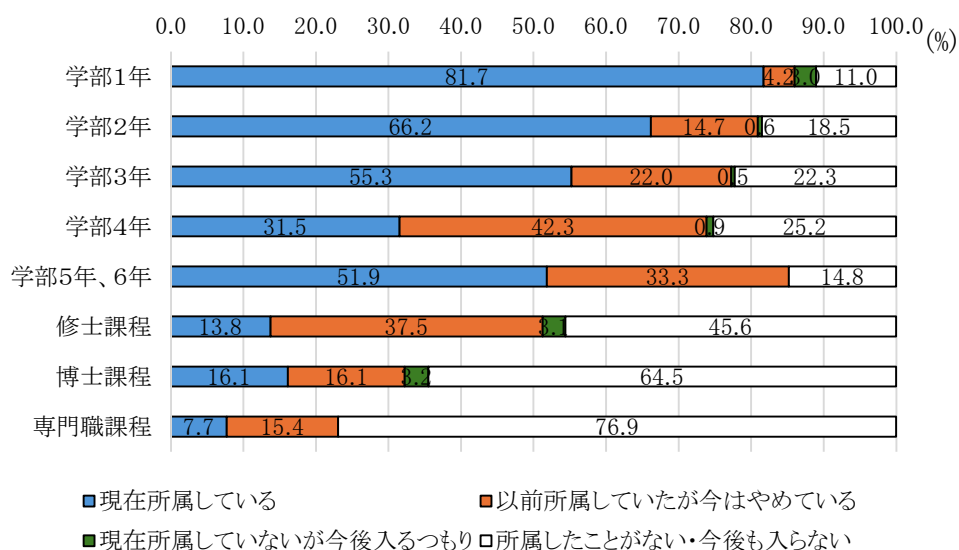


図 1-2 サークル所属状況

1-3. 奨学金受給の有無

奨学金を受給しているかを尋ねたところ、「日本学生支援機構の貸与型奨学金(第一種、第二種)を受給している」と回答した者は全体として 33.2%いた。また、「日本学生支援機構の給付型奨学金を受給している」と回答した者は全体で 19.7%いた。

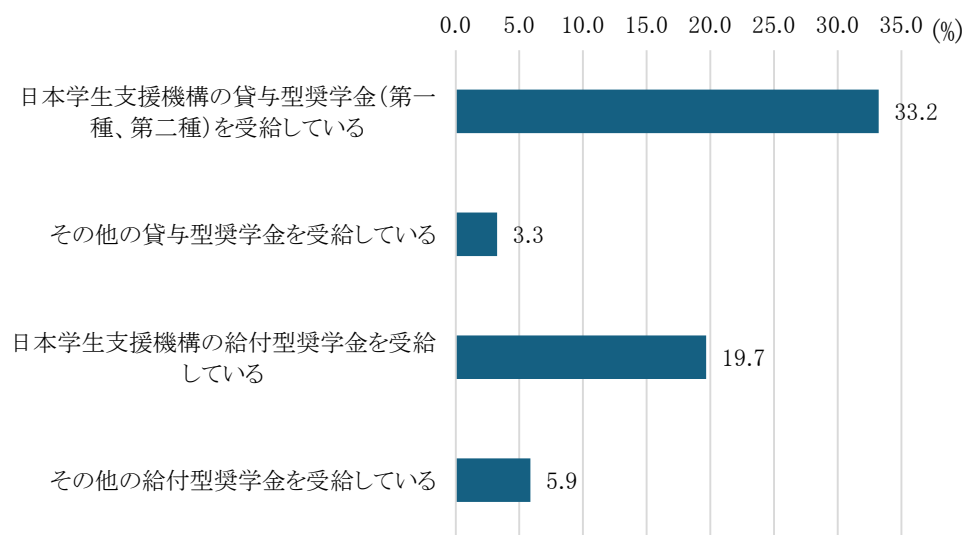


図 1-3 奨学金を受給していると回答した者の割合

表 1-3 奨学金を受給していると回答した者の割合(％、学年別)

	日本学生支援機構の貸与型奨学金(第一種、第二種)を受給している	その他の貸与型奨学金を受給している	日本学生支援機構の給付型奨学金を受給している	その他の給付型奨学金を受給している
全体	33.2	3.3	19.7	5.9
学部1年	30.7	2.7	25.1	5.0
学部2年	34.7	3.5	22.8	6.6
学部3年	33.0	4.5	20.5	5.8
学部4年	37.8	3.2	15.3	3.2
学部5年、6年	18.5	11.1	3.7	3.7
修士課程	38.8	1.3	0.6	10.0
博士課程	25.8	3.2	3.2	16.1
専門職課程	38.5	0.0	0.0	15.4

2. 経済状況

2-1. アルバイトについて

現在アルバイトをしているかを尋ねたところ、学部1～4年、修士課程においては「している」と回答した者の割合が多かった。特に多かったのは、学部2年と3年で、その割合は80%を超えていた。学部5・6年および博士課程では「していない」と回答した者の方が多かった。

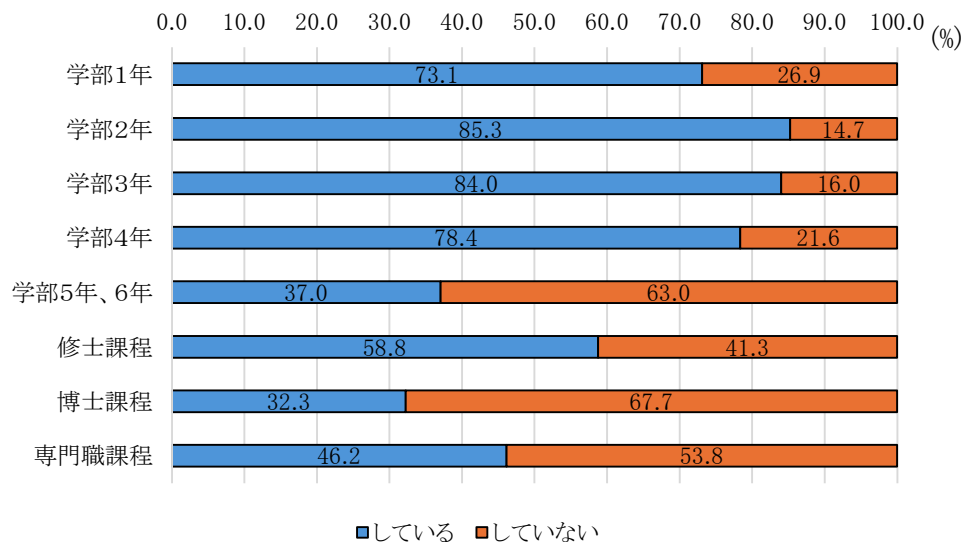


図 2-1 アルバイト状況

2-2. アルバイト収入の使途

現在アルバイトをしている者に対して、アルバイトの収入を何に使っているかを尋ねたところ、全体として最も多くあげられたのは「娯楽、嗜好品」、次いで「衣食住のための生活費」「貯金」が多くあげられていた。

学年・課程別にみると、「娯楽、嗜好品」や「貯金」と回答した者の割合は、学部5・6年、修士課程、博士課程、専門職課程では少なかった。また、「旅行やレジャー費」と回答した者の割合も、修士課程、博士課程、専門職課程で少なかった。博士課程では「授業料」、専門職課程では「授業料以外の学習費」をあげるものが特に多かった。

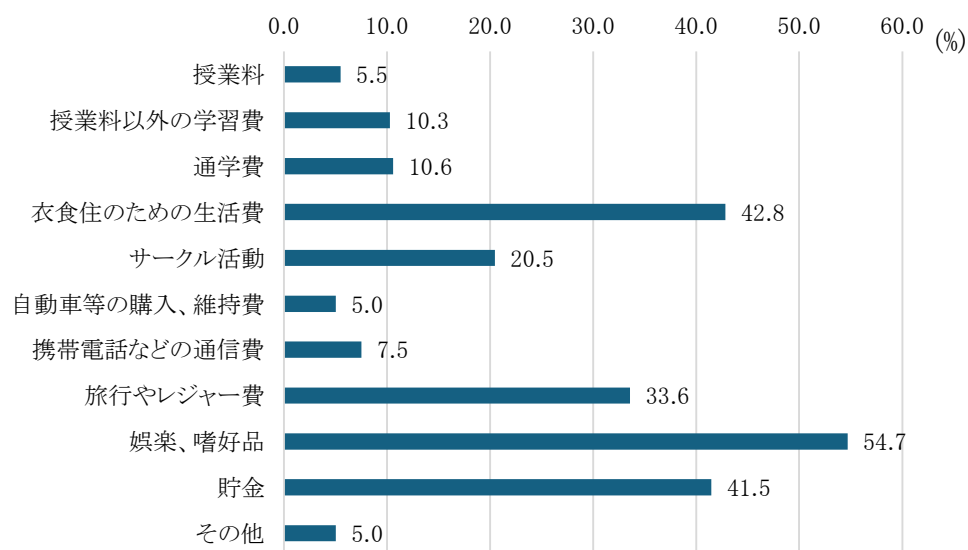


図 2-2 アルバイト収入の使途(複数選択可)

表 2-2 アルバイト収入の使途(複数選択可、学年別)

	授業料	授業料以外の学習費	通学費	衣食住のための生活費	サークル活動	自動車等の購入、維持費	携帯電話などの通信費	旅行やレジャー費	娯楽、嗜好品	貯金	その他
全体	5.5	10.3	10.6	42.8	20.5	5.0	7.5	33.6	54.7	41.5	5.0
学部1年	4.4	6.7	8.4	36.4	24.8	3.3	4.5	28.0	53.7	46.0	4.8
学部2年	4.3	11.0	13.3	41.6	28.6	5.2	7.2	41.0	63.3	46.5	3.8
学部3年	4.5	14.5	10.3	49.5	21.8	7.8	9.3	39.8	59.8	41.5	4.8
学部4年	5.9	9.9	11.7	54.5	7.7	3.6	8.1	43.7	59.5	39.6	6.8
学部5年、6年	0.0	7.4	7.4	25.9	14.8	11.1	3.7	29.6	33.3	22.2	7.4
修士課程	11.9	11.9	13.1	46.9	3.8	7.5	15.6	20.6	36.9	25.6	5.0
博士課程	22.6	16.1	16.1	29.0	6.5	3.2	16.1	3.2	6.5	6.5	9.7
専門職課程	15.4	38.5	15.4	38.5	0.0	0.0	0.0	15.4	23.1	7.7	15.4

※表内数値は%

3. 本学への思いや学生生活について

3-1. 大学への登校日数

今学期の1週間あたりの大学への登校日数を尋ねたところ、平均で学部1年および2年は4.8日、学部3年は4.3日、学部4年は3.4日、学部5,6年は4.7日、修士課程は4.3日、博士課程3.6日、専門職課程は4.0日であった。日数別の割合は図8の通りである。

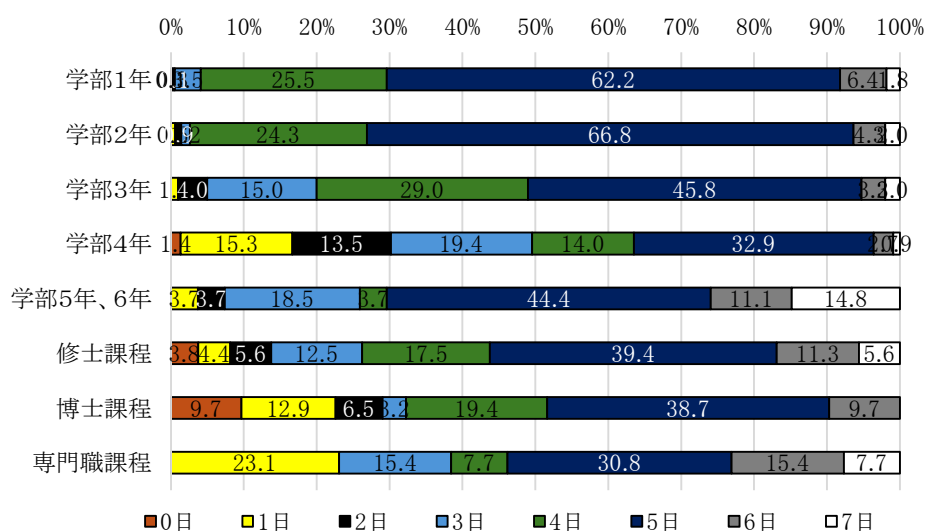


図 3-1 今学期の1週間あたりの大学への登校日数

3-2. 学生生活について

現在の学生生活について、図 15-0 にある8項目を用いて尋ねた。全体傾向として、「(7)将来の目標や卒業後の進路について不安を感じる」について、「あてはまる」(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」)の方が、「あてはまらない」(「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」)よりも多いことが示された。

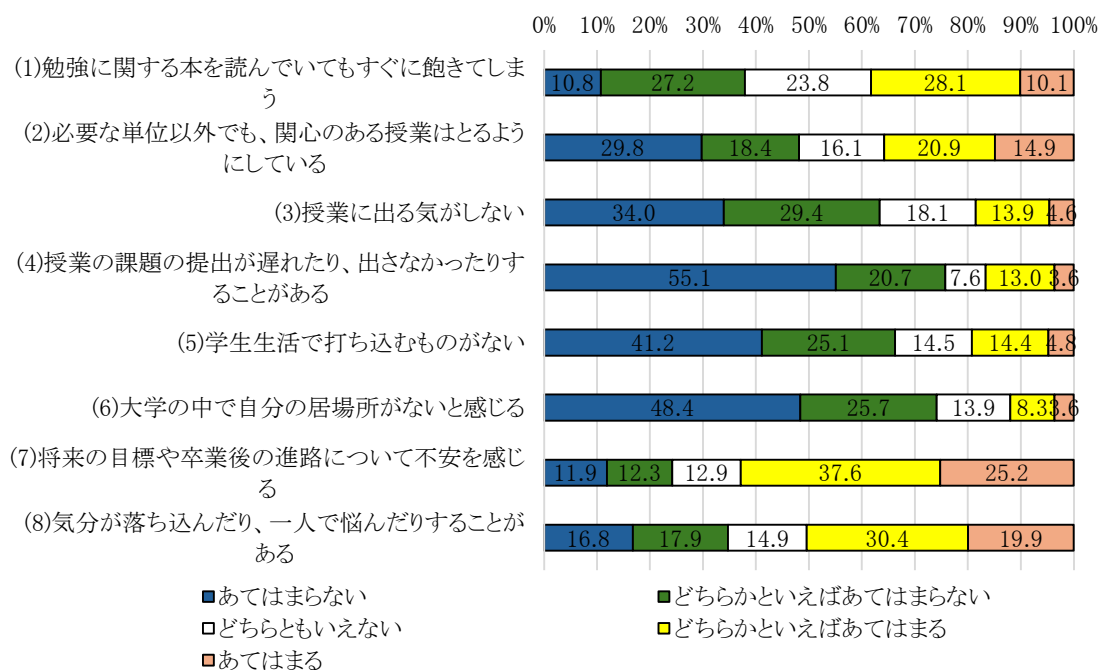


図 3-2-0 学生生活について

(1) 勉強に関する本を読んでもすぐに飽きてしまう

学年が上がるにつれて、“あてはまらない”“どちらかといえばあてはまらない”と回答する者の割合が増える傾向を示していた。“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”と回答する者の割合が特に多かったのは、学部1年と4年であった。

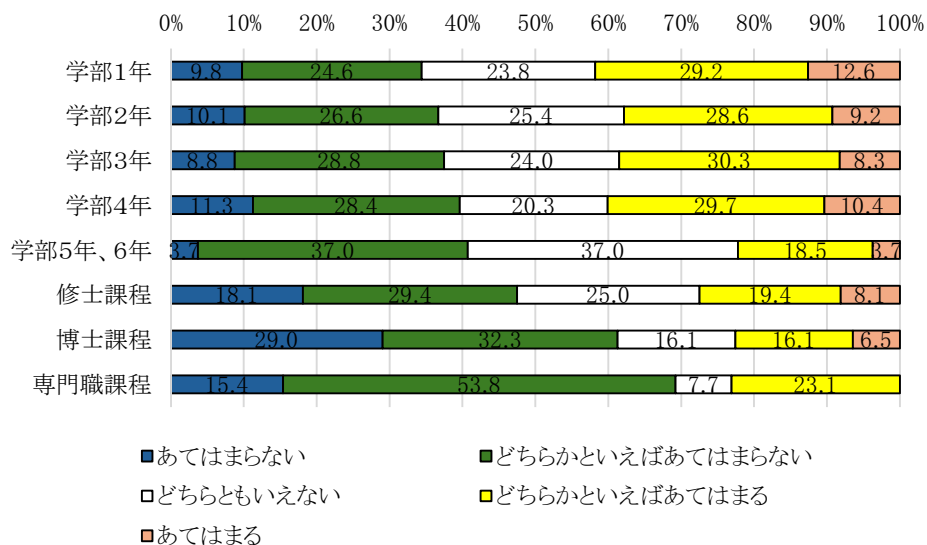


図 3-2-1 「勉強に関する本を読んでもすぐに飽きてしまう」に対する回答の割合

(2) 必要な単位以外でも、関心のある授業をとるようにしている

学部1年および学部5、6年では、“あてはまらない”“どちらかといえばあてはまらない”と回答した者の割合が50%を超えていた。学部1年、5年、6年においては、必要な単位以外であればたとえ関心のある授業であってもとらない者が多い傾向がうかがえる。

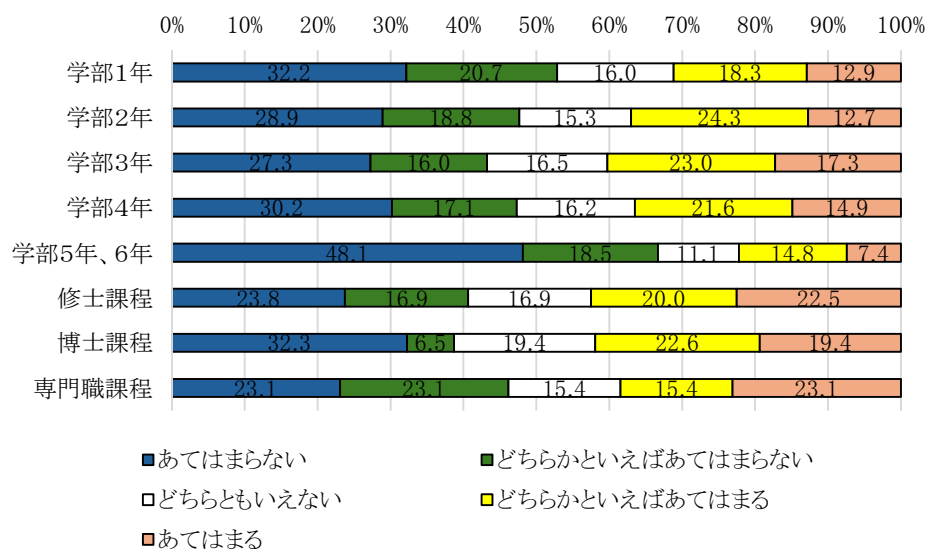


図 3-2-2 「必要な単位以外でも、関心のある授業はとるようにしている」に対する回答の割合

(3) 授業に出る気がしない

どの学年、課程においても、“あてはまらない”“どちらかといえばあてはまらない”と回答した者の割合が多かった。

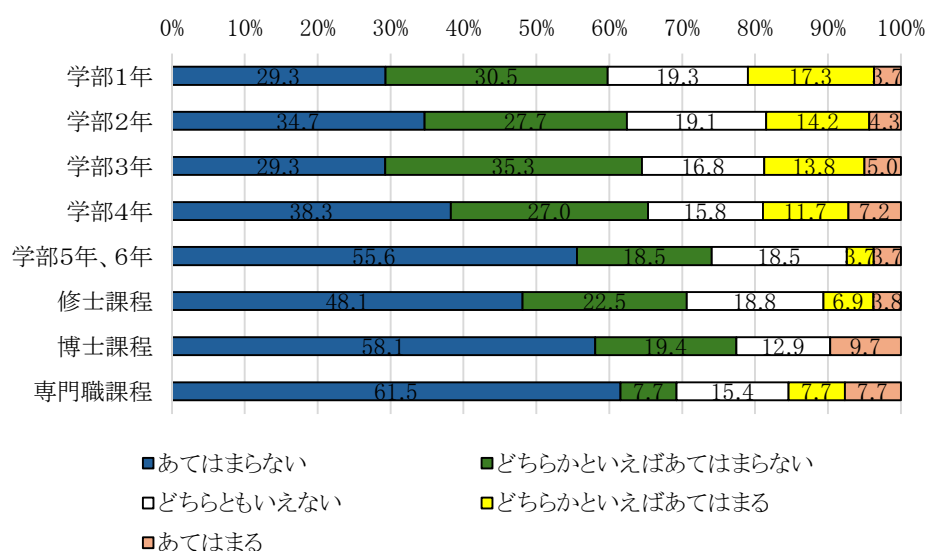


図 3-2-3 「授業に出る気がしない」に対する回答の割合

(4) 授業の課題の提出が遅れたり、出さなかったりすることがある

どの学年、課程においても、“あてはまらない”“どちらかといえばあてはまらない”と回答した者の割合が多かった。“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”と回答する者の割合が最も多かったのは、学部1年であった。

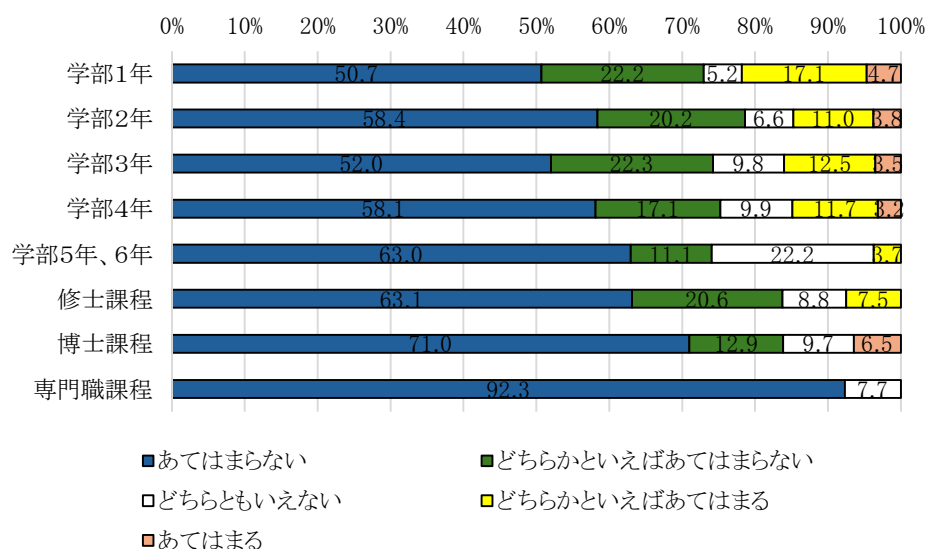


図 3-2-4 「授業の課題の提出が遅れたり、出さなかったりすることがある」に対する回答の割合

(5) 学生生活で打ち込むものがない

どの学年、課程においても、“あてはまらない”“どちらかといえばあてはまらない”と回答した者の割合が多く、60%を超えていた。“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”と回答する者の割合が最も多かったのは、学部2年であった。

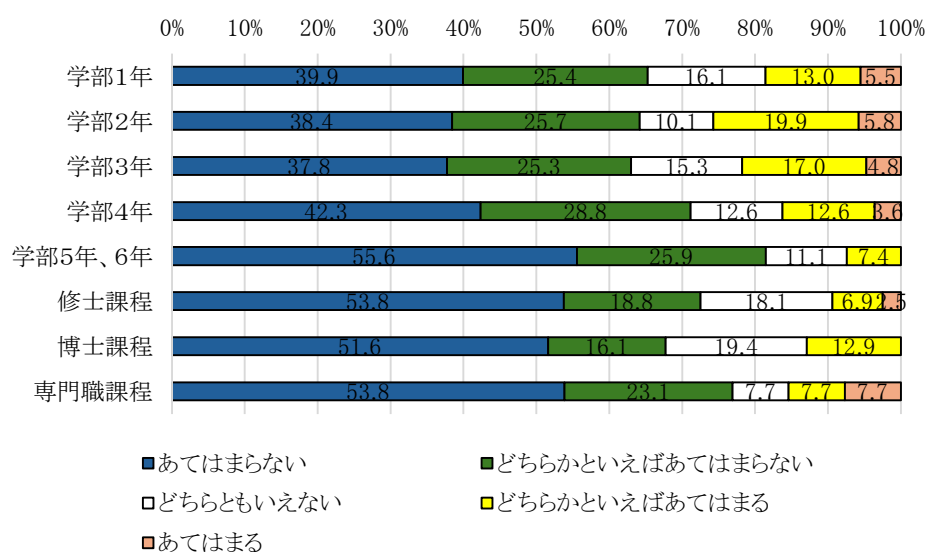


図 3-2-5 「学生生活で打ち込むものがない」に対する回答の割合

(6) 大学の中で自分の居場所がないと感じる

どの学年、課程においても、“あてはまらない”“どちらかといえばあてはまらない”と回答した者の割合が多く、70%を超えていた。

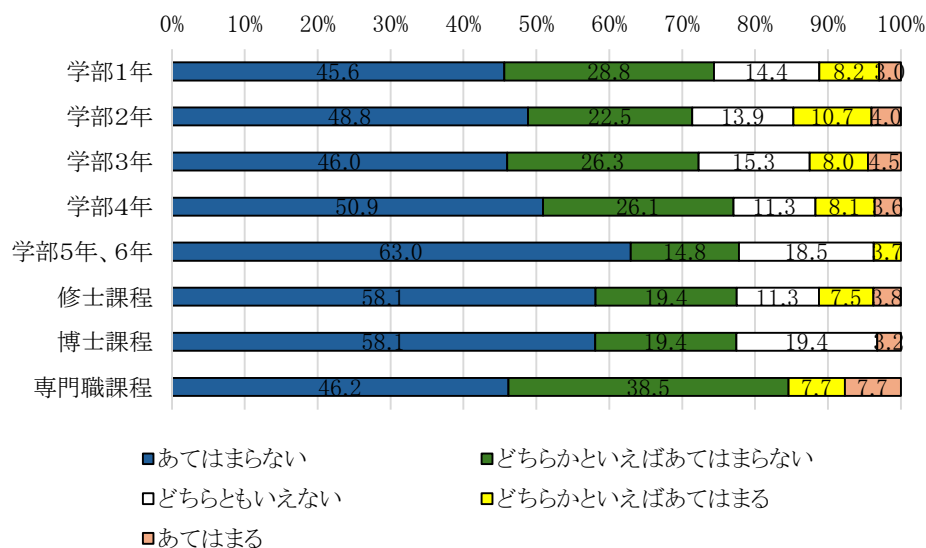


図 3-2-6 「大学の中で自分の居場所がないと感じる」に対する回答の割合

(7) 将来の目標や卒業後の進路について不安を感じる

学部1年～4年、修士課程、専門職課程において、“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”の方が、“あてはまらない”“どちらかといえばあてはまらない”よりも多いことが示された。特に学部1年～4年における“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”と回答した者の割合は50%以上を占めており、その割合が特に多かったのは学部2年で72.2%を占めていた。

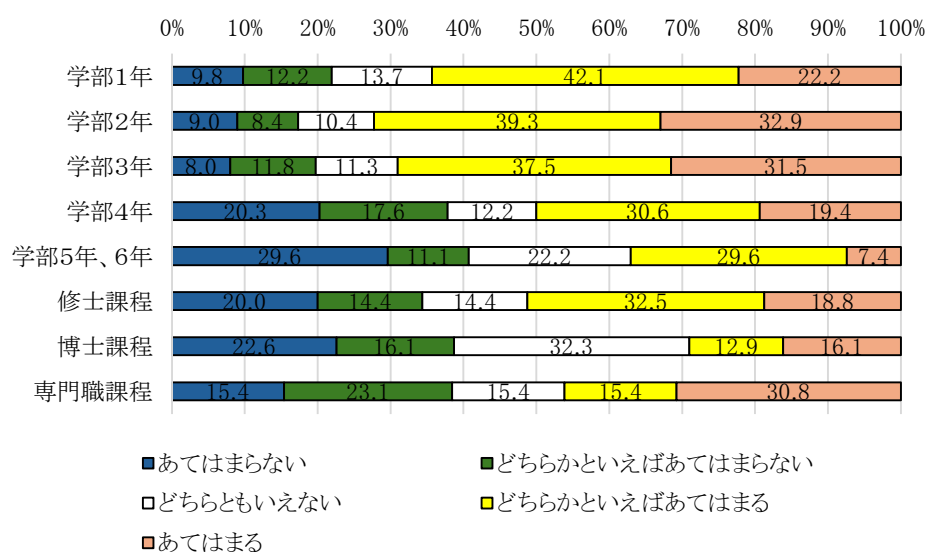


図 3-2-7 「将来の目標や卒業後の進路について不安を感じる」に対する回答の割合

(8) 気分が落ち込んだり、一人で悩んだりすることがある

学部5, 6年を除くすべての学年、課程において、“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”と回答した者の割合が多かった。

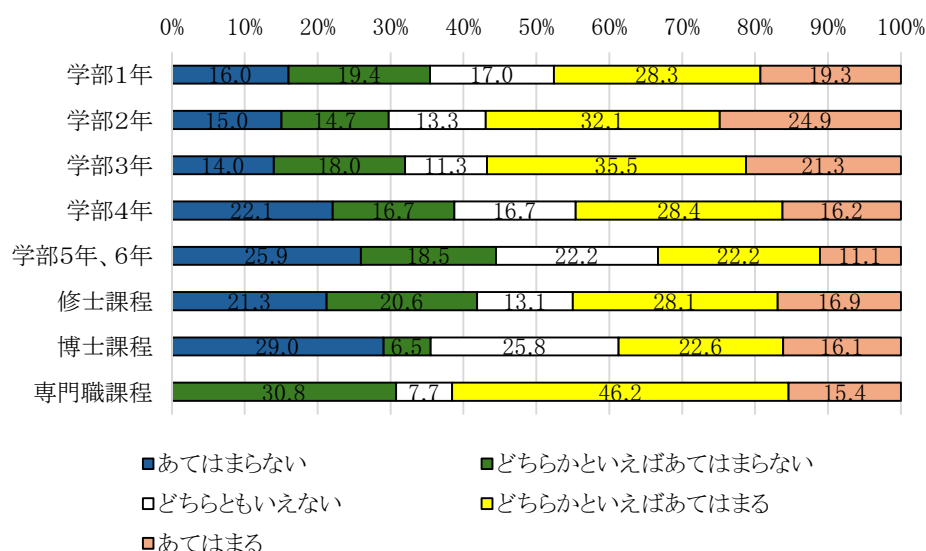


図 3-2-8 「気分が落ち込んだり、一人で悩んだりすることがある」に対する回答の割合

3-3. 指導教員とのコミュニケーション

指導教員とコミュニケーションがとれているか尋ねたところ、学部3年以上においては、“とれている”“どちらかといえばとれている”と回答した者の割合が70%を超えていた。学部1年においては“とれている”“どちらかといえばとれている”と回答した者の割合が他の学年とは異なり、唯一50%をきっていた。

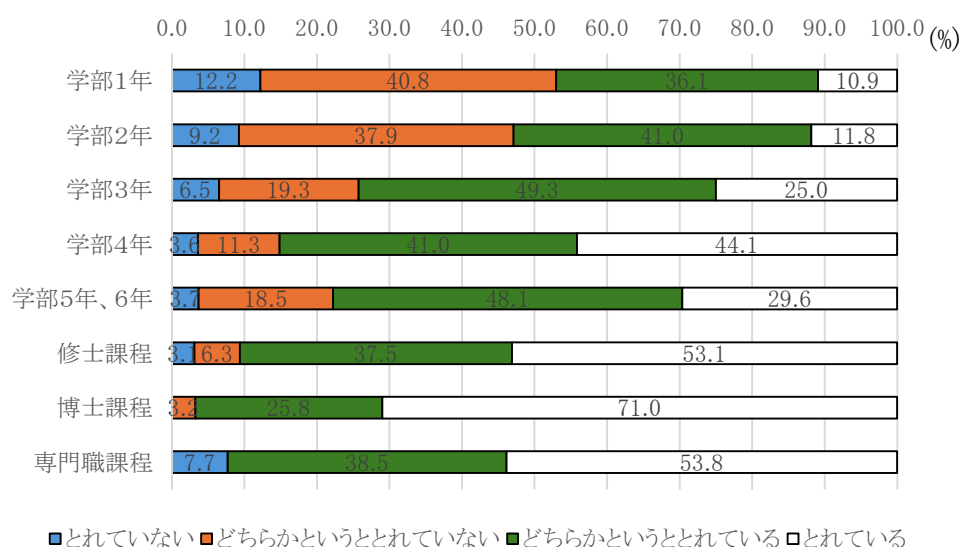


図 3-3 指導教員とのコミュニケーション

3-4. 本学の設備や学生支援制度に対する満足度

本学の設備や学生支援制度に対してどの程度満足しているかを尋ねた。提示した7項目について、“とても満足”“満足”と回答した者の割合が最も多かったのは、「(1)図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)」であった。次いで、「(3)コンピュータの施設や設備」「(6)健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)」も多かった。

「(4)インターネットの使いやすさ」について“とても不満”“不満”と回答した者の割合が比較的多かった。

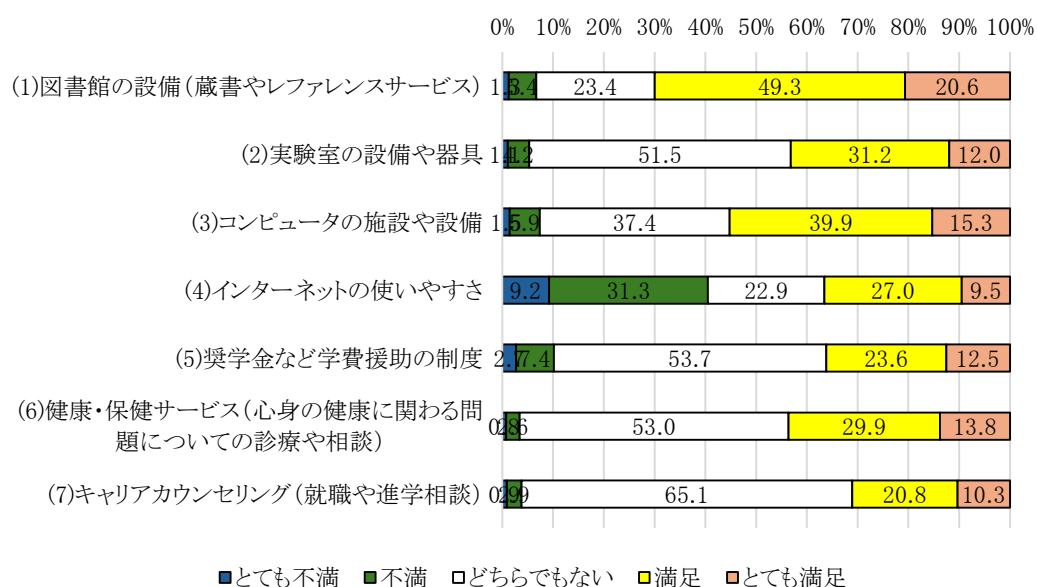


図 3-4-0 本学の設備や学生支援制度に対する満足度

(1) 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)

博士課程を除くすべての学年・課程において、“とても満足”“満足”と回答する者の割合が多かった。博士課程においては、“とても満足”“満足”と回答する者の割合が5割を満たしていなかった。

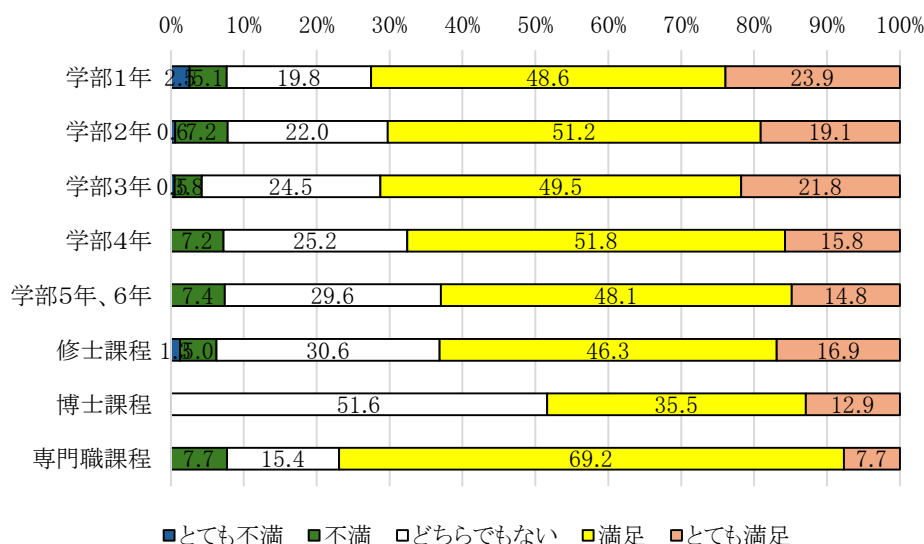


図 3-4-1 「図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)」に対する満足度

(2) 実験室の設備や器具

いずれの学年においても、「どちらでもない」と回答する者が多かった。学部5, 6年については、“とても満足”“満足”と回答する者の割合が多かった。

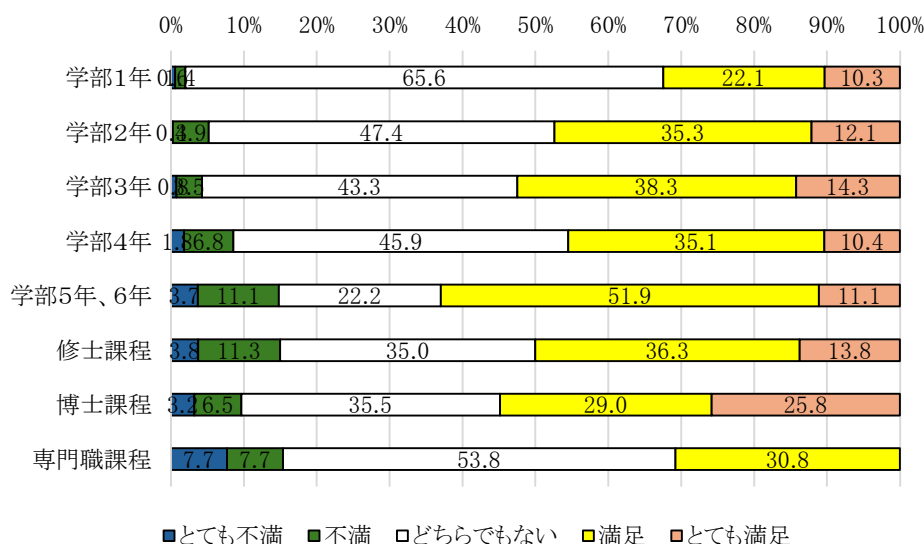


図 3-4-2 「実験室の設備や器具」に対する満足度

(3) コンピュータの施設や設備

ほとんどの学年・課程において、“とても満足”“満足”と回答する者の割合が多かった。専門職課程においては、“とても不満”“不満”と回答する者の割合が多かった。

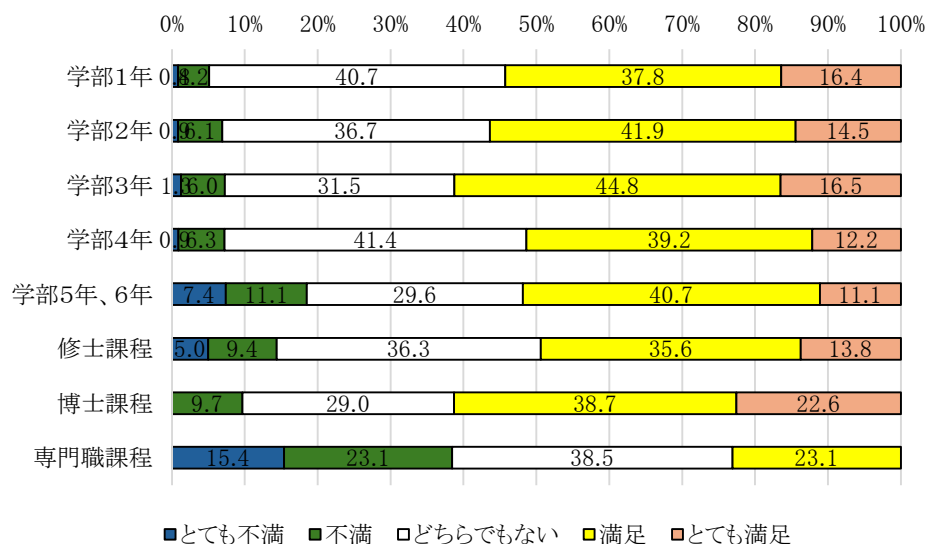


図 3-4-3 「コンピュータの施設や設備」に対する満足度

(4) インターネットの使いやすさ

学年が上がるにつれて、“とても満足”“満足”と回答する者の割合が多くなる傾向がうかがえた。学部1年においては唯一、“とても不満”“不満”と回答する者の割合が50%を超えていた。

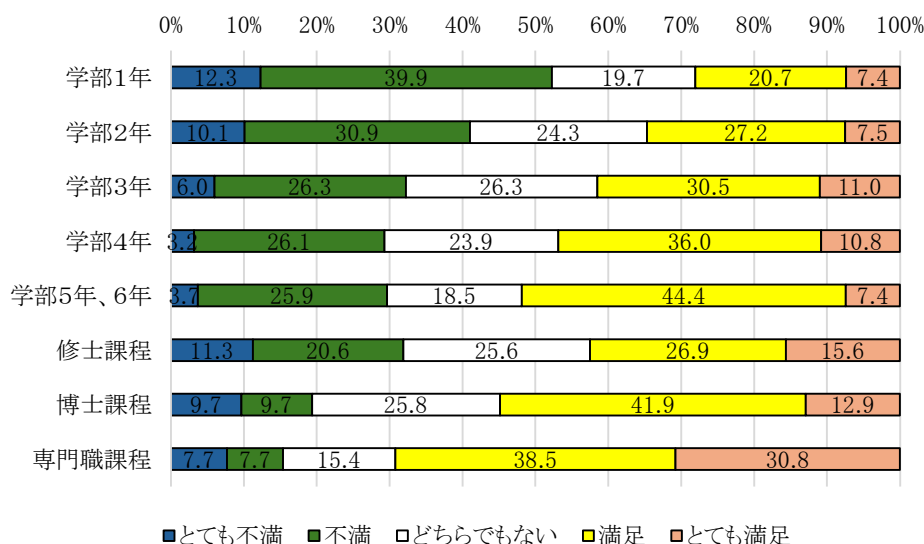


図 3-4-4 「インターネットの使いやすさ」に対する満足度

(5) 奨学金など学費援助の制度

すべての学年・課程において、“とても不満”“不満”と回答する者の割合が1割程度にとどまっている。

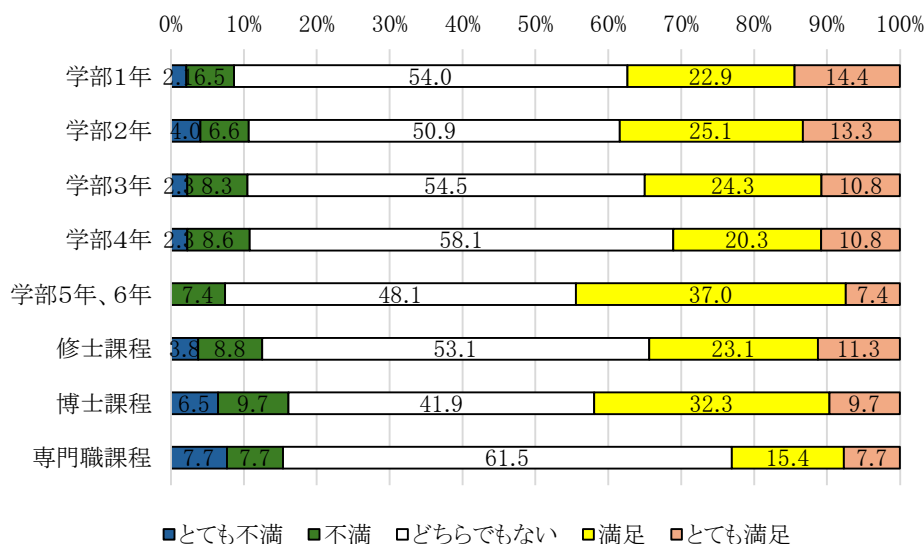


図 3-4-5 「奨学金など学費援助の制度」に対する満足度

(6) 健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)

すべての学年・課程において、“とても満足”“満足”と回答する者の割合が多かった。

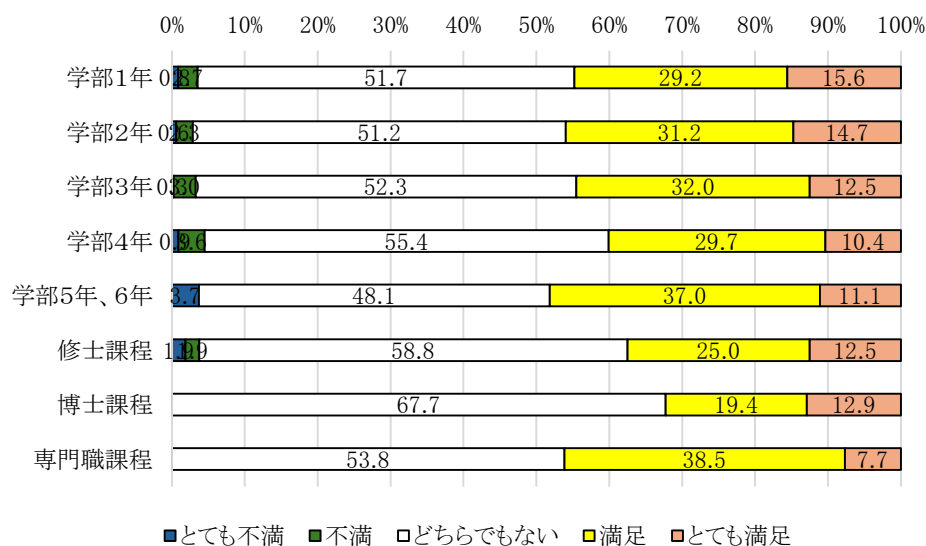


図 3-4-6 「健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)」に対する満足度

(7) キャリアカウンセリング(就職や進学相談)

いずれの学年においても、「どちらでもない」と回答する者が多かった。学部5, 6年については、「とても満足」「満足」と回答する者の割合が比較的多かった。

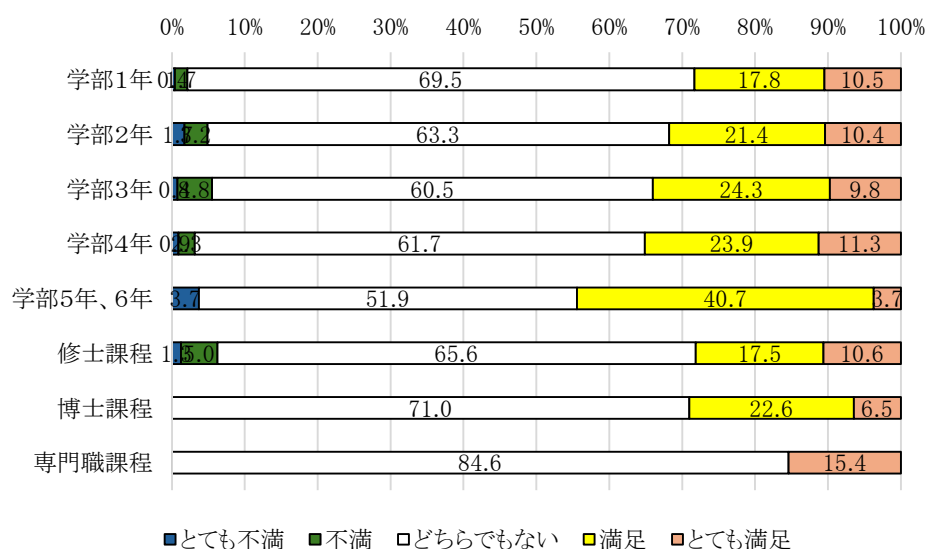


図 3-4-7 「キャリアカウンセリング(就職や進学相談)」に対する満足度

3-5. 生成 AI 利用頻度

今学期、ChatGPT をはじめとした生成 AI を利用したか尋ねたところ、「頻繁に利用した」「ときどき利用した」と回答する者の割合が「全く利用しなかった」「あまり利用しなかった」と回答する者の割合よりも多かった。学部 1～4 年および修士課程においては、「頻繁に利用した」「ときどき利用した」と回答する者の割合が 8 割程度を占めていた。

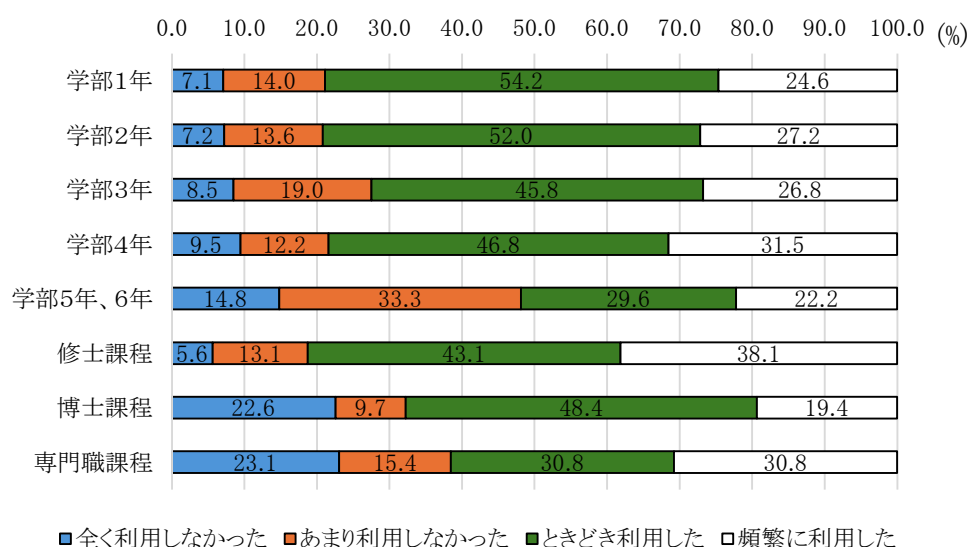


図 3-5 生成 AI 利用頻度

3-6. 生成 AI の主な利用状況

生成 AI を“頻繁に利用した”“ときどき利用した”と回答した者に対して、主な利用状況を尋ねたところ、全体として最も多くあがっていたのは「授業時間外の授業課題や予習復習時」、次いで「個人的な趣味活動中」が多くあげられていた。

学部4年以上については「授業時間外の授業課題や予習復習時」をあげる者は少なく、「研究活動中」「就職活動中」をあげる者の割合が比較的多かった。

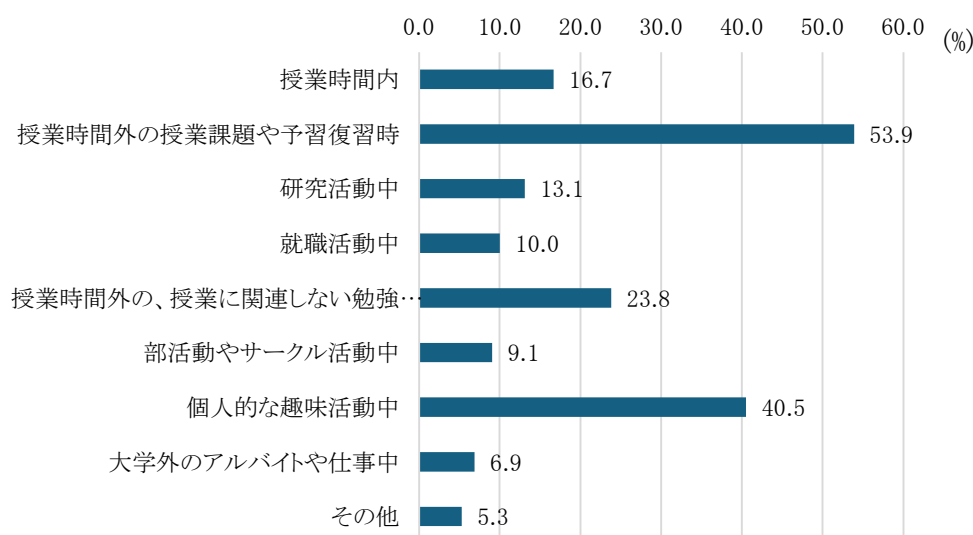


図 3-6 生成 AI の主な利用状況 (複数選択可)

図 3-6 生成 AI の主な利用状況 (複数選択可、学年別)

	授業時間内	授業時間外の授業課題や予習復習時	研究活動中	就職活動中	授業時間外の、授業に関連しない勉強をしているとき	部活動やサークル活動中	個人的な趣味活動中	大学外のアパートや仕事	その他
全体	16.7	53.9	13.1	10.0	23.8	9.1	40.5	6.9	5.3
学部1年	17.0	60.1	4.4	0.1	24.6	10.6	44.9	6.7	5.4
学部2年	22.3	63.0	2.9	1.2	26.9	11.8	41.9	6.6	5.8
学部3年	18.0	53.0	7.3	15.3	19.8	11.5	34.0	7.8	4.3
学部4年	14.0	38.3	36.0	26.6	24.8	3.6	45.5	6.3	4.1
学部5年、6年	0.0	29.6	3.7	22.2	22.2	0.0	25.9	3.7	7.4
修士課程	10.0	42.5	54.4	35.6	25.0	1.3	33.8	8.8	5.0
博士課程	6.5	19.4	32.3	9.7	16.1	3.2	25.8	3.2	22.6
専門職課程	0.0	46.2	15.4	0.0	15.4	0.0	30.8	0.0	0.0

※表内数値は%

3-7. 鹿児島大学に対する意識

鹿児島大学が好きかどうかを尋ねたところ、すべての学年および課程において、「好き」「まあ好き」と回答した者の割合が多かった。

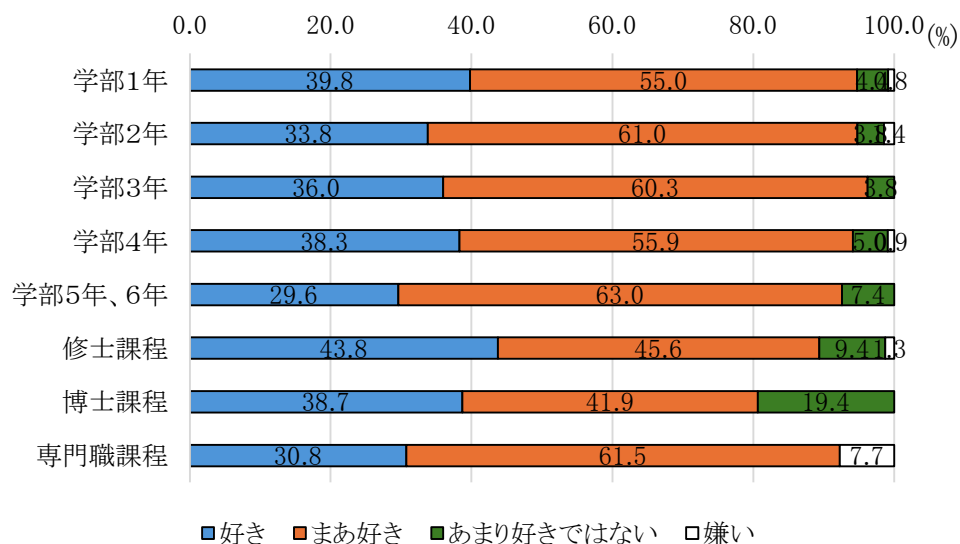


図 3-7 鹿児島大学に対する意識

3-8. 学生生活の充実度

現在の学生生活が充実しているかを尋ねたところ、“とても充実している”“まあ充実している”と回答した者の割合がどの学年、課程においても多く占めていた。

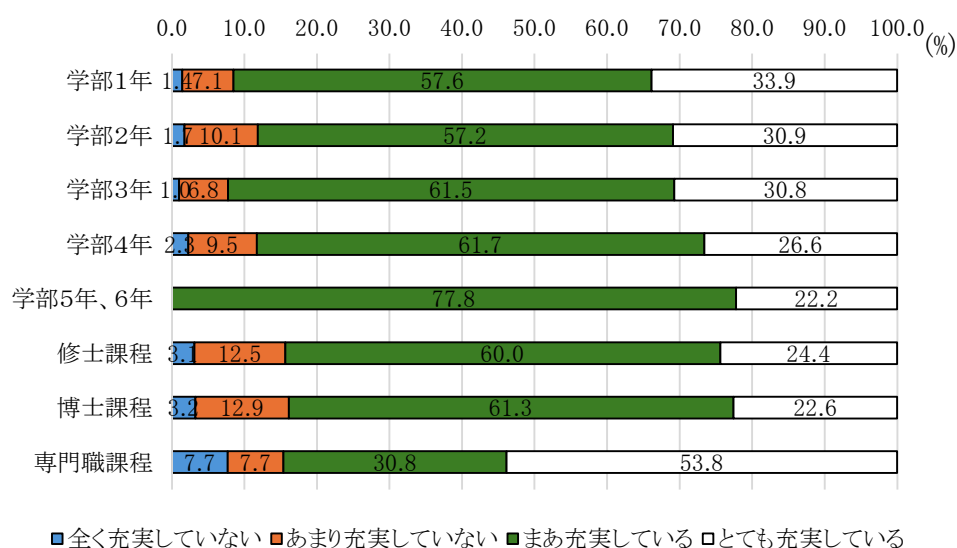


図 3-8 学生生活充実度

3-9. 成長を実感する度合い

学生生活を通して自身の成長を実感するか尋ねたところ、“とても実感している”“まあ実感している”と回答した者の割合がどの学年、課程においても多く占めていた。

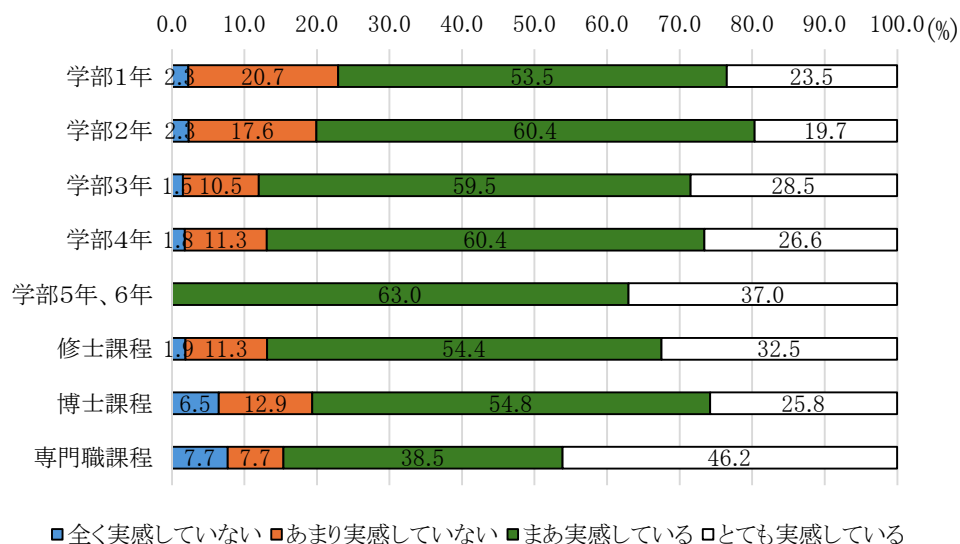


図 3-9 自身の成長を実感する度合い

3-10. 海外留学希望の有無

大学在学中に海外留学を希望するかを尋ねたところ、学部1年において最も多かったのは「留学したいが、できないと思う」であった。学部2～4年や修士課程、博士課程において「留学したいと思わない」、学部5、6年や専門職課程において「わからない、考えたことがない」と回答した者が最も多かった。

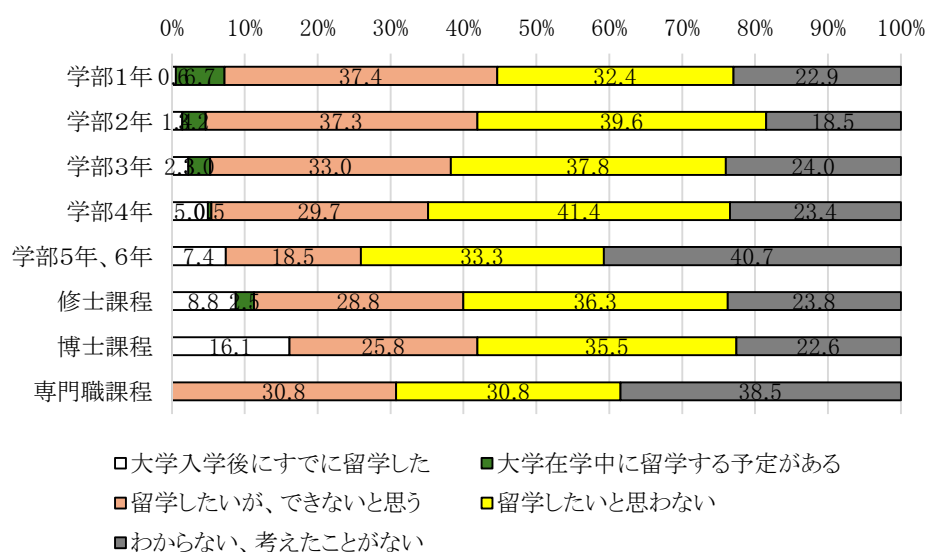


図 3-10 海外留学希望の有無

3-11. 留学生との交流状況

本学での留学生との交流について尋ねたところ、学部1年では「留学生と交流したいが機会がない」、学部2年、3年、5、6年、専門職課程においては「わからない、考えたことがない」、学部4年、修士課程、博士課程では「大学入学後に留学生と交流したことがある」が、それぞれ最も多かった。

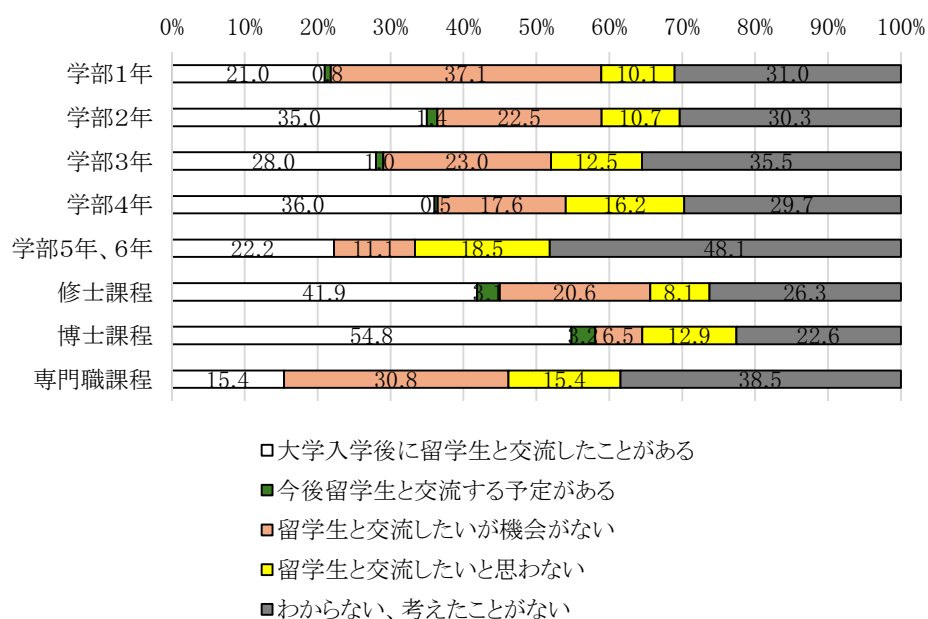


図 3-11 留学生との交流状況

4. 進路や就職活動について

4-1. 卒業後の進路(学部生)

学部生に現在検討している卒業後の進路を尋ねたところ、どの学年においても、最も多かったのは「就職する」であった。学部1～4年で60%程度、5・6年においては80.8%を占めていた。次いで多かったのは「本学の大学院に進学する」であった。

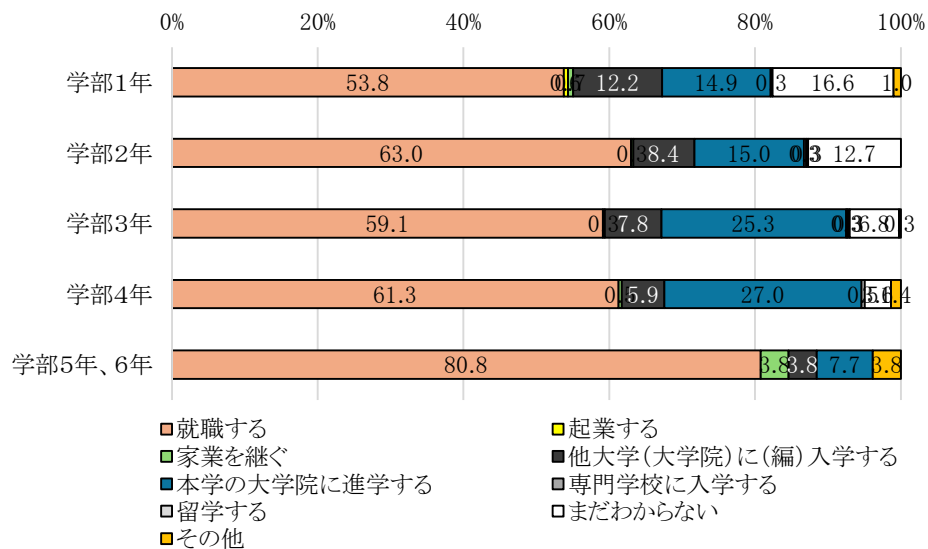


図 4-1 卒業後の進路(学部生)

4-2. 進路(大学院生)

大学院生に現在検討している進路を尋ねたところ、修士課程においては「民間企業」(60.6%)が最も多かった。博士課程および専門職課程においては、「教員」が最も多く、次いで「社会人としての経験があり、修了後に元の職場に復職」が多かった。

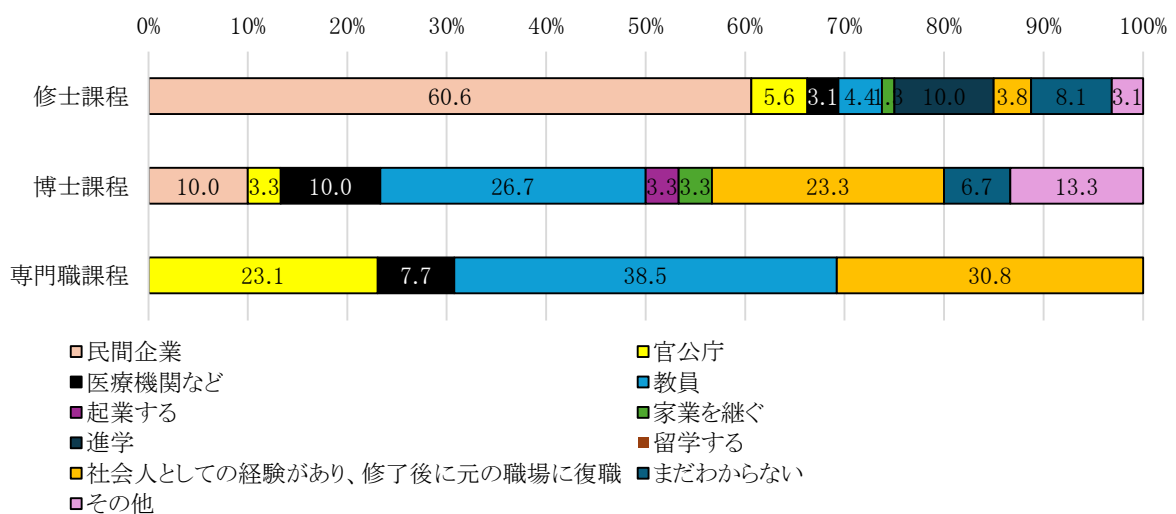


図4-2 大学院修了後の進路(大学院生)

4-3. 第1希望の就職地域

第1希望の就職地域はどこかを尋ねたところ、全体として最も多かったのは「九州内(鹿児島県外)」、次いで「鹿児島県(本土)」が多くあげられていた。特に学部5、6年および専門職課程において「鹿児島県(本土)」をあげる者の割合が多かった。また、専門職課程については「関東地方」をあげる者も特に多かった。

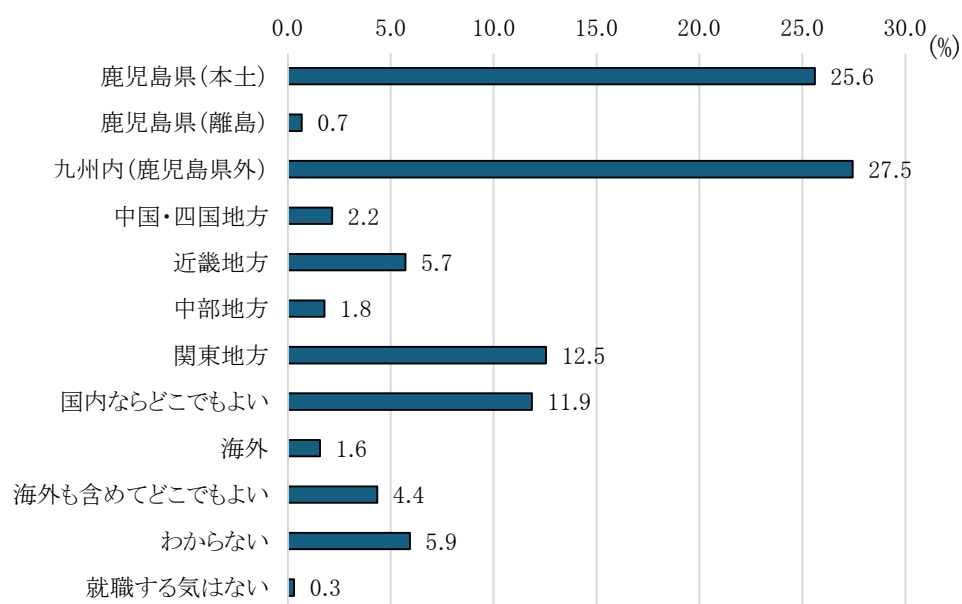


図 4-3 第1希望の就職地域

表 4-3 第1希望の就職地域(学年別)

	鹿児島県(本土)	鹿児島県(離島)	九州内(鹿児島県外)	中国・四国地方	近畿地方	中部地方	関東地方	国内ならどこでもよい	海外	海外も含めてどこでもよい	わからない	就職する気はない
全体	25.6	0.7	27.5	2.2	5.7	1.8	12.5	11.9	1.6	4.4	5.9	0.3
学部1年	23.8	0.7	26.5	2.7	5.8	2.4	11.8	10.5	1.7	5.8	8.2	0.1
学部2年	29.2	0.3	32.1	2.9	5.5	1.2	11.0	7.5	1.2	3.8	5.2	0.3
学部3年	23.5	0.8	29.8	1.5	6.5	1.8	14.0	13.3	1.0	2.5	4.8	0.8
学部4年	27.0	0.5	29.3	0.5	5.0	1.4	15.8	13.1	1.4	4.1	2.3	0.0
学部5年、6年	40.7	0.0	22.2	7.4	0.0	3.7	7.4	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0
修士課程	25.0	1.3	18.8	1.3	6.3	1.3	13.1	21.9	1.3	5.0	5.0	0.0
博士課程	29.0	0.0	6.5	3.2	6.5	0.0	3.2	12.9	16.1	3.2	16.1	3.2
専門職課程	38.5	7.7	23.1	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0

※表内数値は%

4-4. 第2希望の就職地

第2希望の就職地域を尋ねたところ、全体として最も多くあげられていたのは「九州内(鹿児島県外)」、次いで「鹿児島県(本土)」をあげる者が多かった。学部5, 6年においては「国内ならどこでもよい」と回答する者も多かった。

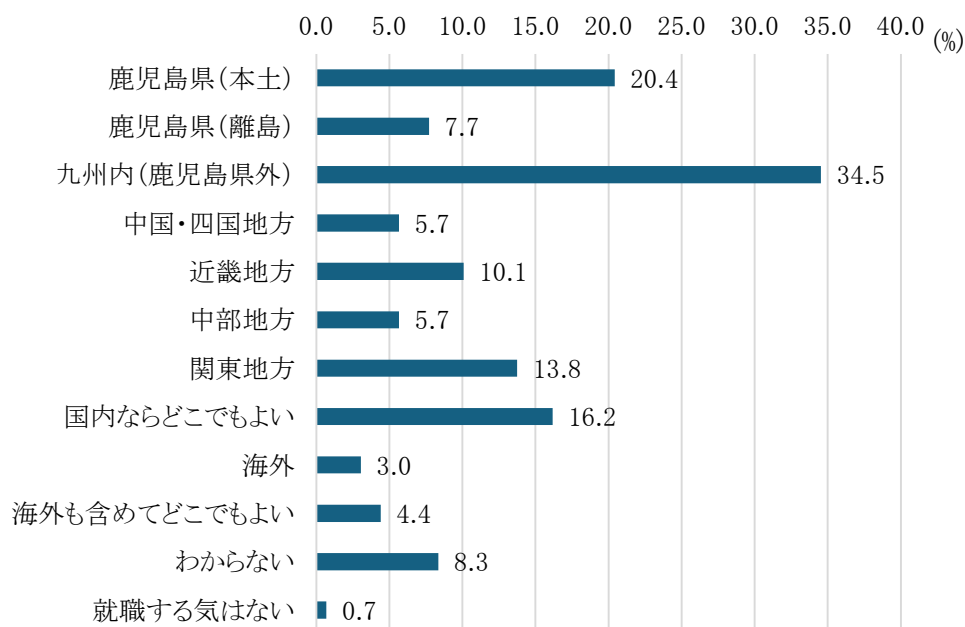


図 4-4 第2希望以降の就職地域(複数選択可)

表 4-4 第2希望以降の就職地域(複数選択可、学年別)

	鹿児島県(本土)	鹿児島県(離島)	九州内(鹿児島県外)	中国・四国地方	近畿地方	中部地方	関東地方	国内ならどこでもよい	海外	海外も含めてどこでもよい	わからない	就職する気はない
全体	20.4	7.7	34.5	5.7	10.1	5.7	13.8	16.2	3.0	4.4	8.3	0.7
学部1年	19.4	9.2	32.6	5.7	10.9	5.1	12.6	14.7	3.5	5.0	11.0	0.7
学部2年	22.8	8.1	38.2	6.6	10.1	6.1	15.0	16.5	2.0	1.4	6.6	0.6
学部3年	19.8	6.3	34.8	4.5	6.3	7.0	15.0	19.3	3.0	4.3	6.0	1.0
学部4年	23.0	7.7	38.7	5.0	13.1	4.5	12.6	13.1	1.8	5.0	5.4	0.0
学部5年、6年	33.3	3.7	25.9	0.0	0.0	0.0	7.4	29.6	0.0	3.7	11.1	0.0
修士課程	16.3	5.0	33.1	8.1	15.0	7.5	17.5	17.5	3.8	8.1	7.5	0.6
博士課程	9.7	6.5	25.8	9.7	0.0	0.0	6.5	12.9	9.7	3.2	19.4	3.2
専門職課程	38.5	7.7	23.1	0.0	15.4	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	0.0

※表内数値は%

4-5. 就職活動状況

現在就職活動を行っているか尋ねたところ、「現在、就職活動中」と回答した者が学部3年および修士課程で多かった。

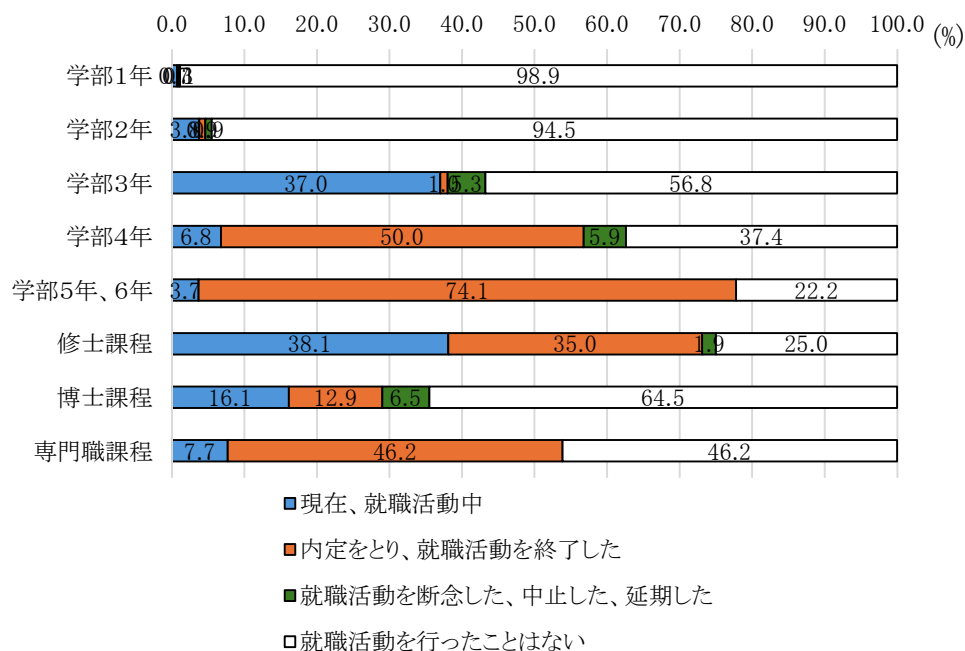


図 4-5 就職活動状況

5. 悩みやハラスメントについて

5-1. 現在の悩み

現在悩んでいることがあるかを尋ねた。全体として最も多くあげられていたのは「進路や就職のこと」、次いで「生活費やお金のこと」「授業やレポート等勉強上のこと」も多くあげられていた。学年・課程別にみると、学部4年、修士課程、博士課程では「研究活動のこと」が特にあげられており、博士課程については「生活費やお金のこと」も多くあげられていた。学部3年においては「進路や就職のこと」が多くあげられていた。

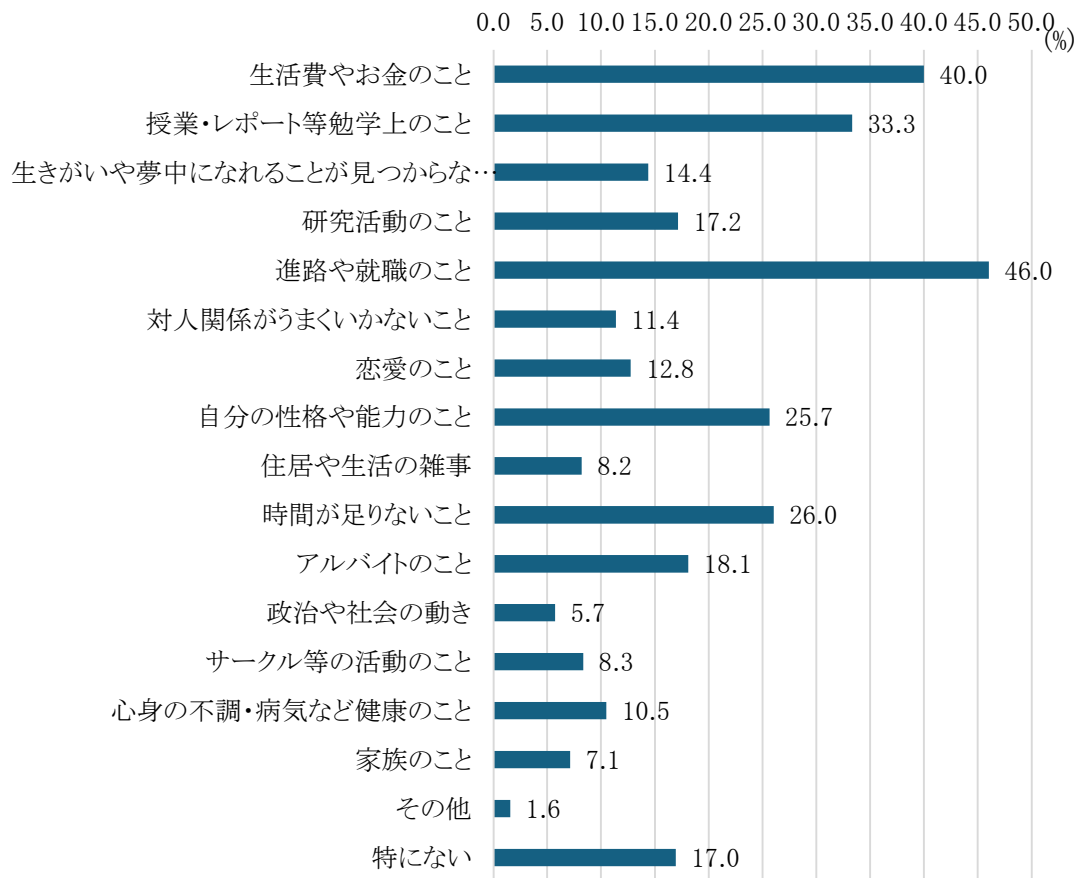


図 5-1 現在の悩み(複数選択可)

表 5-1 現在の悩み(複数選択可、学年別)

	生活費やお金のこと	授業・レポート等勉学上のこと	生きがいや夢中になれることが見つからないこと	研究活動のこと	進路や就職のこと	対人関係がうまくいかないこと	恋愛のこと	自分の性格や能力のこと	住居や生活の雑事	時間が足りないこと	アルバイトのこと	政治や社会の動き	サークル等の活動のこと	心身の不調・病気など健康のこと	家族のこと	その他	特にない
全体	40.0	33.3	14.4	17.2	46.0	11.4	12.8	25.7	8.2	26.0	18.1	5.7	8.3	10.5	7.1	1.6	17.0
学部1年	37.7	43.1	15.9	5.1	38.0	13.0	15.0	28.0	10.2	26.1	24.5	5.9	11.6	9.3	5.2	1.3	19.0
学部2年	42.2	42.5	20.5	7.8	55.2	15.0	17.1	31.8	7.8	30.9	24.0	6.9	13.3	13.9	8.7	1.2	13.0
学部3年	39.3	28.3	12.3	16.3	59.3	7.8	9.3	23.5	6.3	22.5	13.8	4.3	7.0	10.3	6.3	0.5	17.0
学部4年	41.9	17.1	9.9	40.5	39.2	9.0	8.1	19.4	5.9	24.3	7.7	5.0	1.4	10.4	6.8	3.2	20.3
学部5年、6年	33.3	33.3	3.7	0.0	44.4	3.7	7.4	11.1	7.4	18.5	0.0	7.4	0.0	3.7	7.4	0.0	25.9
修士課程	43.1	10.0	11.3	56.9	43.8	10.0	11.9	20.6	7.5	27.5	9.4	6.9	0.0	9.4	11.9	3.1	10.6
博士課程	54.8	16.1	3.2	48.4	32.3	6.5	6.5	9.7	12.9	22.6	6.5	6.5	0.0	16.1	16.1	9.7	16.1
専門職課程	38.5	23.1	0.0	23.1	15.4	23.1	0.0	38.5	7.7	38.5	0.0	0.0	0.0	7.7	23.1	0.0	15.4

※表内数値は%

5-2. 悩みの相談相手

普段、悩みは誰に相談しているか尋ねたところ、全体として最も多くあがっていたのは「友人」であり、次いで「家族」も多くあげられていた。「相談していない」と回答した者の割合も24.2%いた。

大学院生においては「大学の教員」をあげる者の割合が特に多かった。

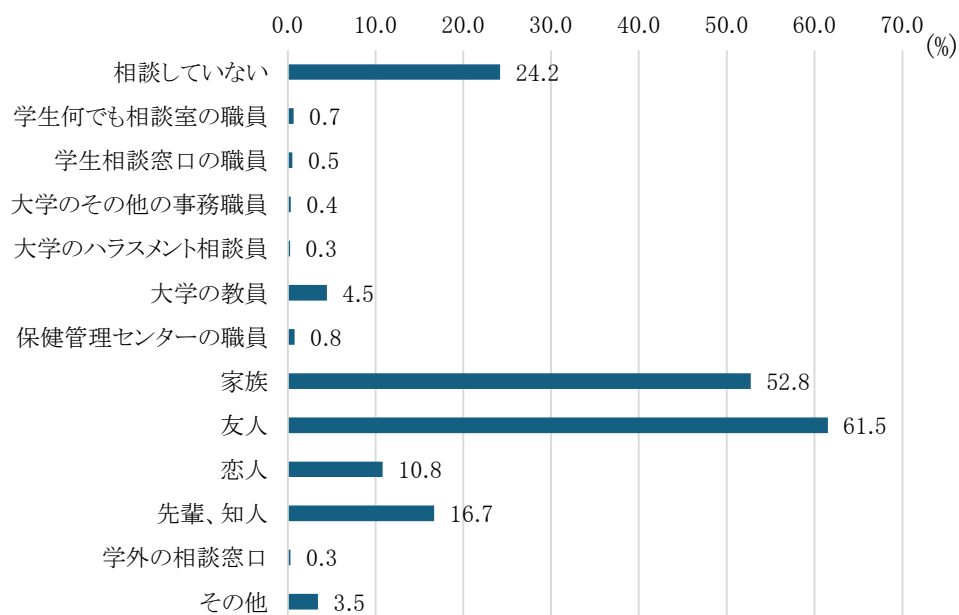


図 5-2 悩みの相談相手(複数選択可)

表 5-2 悩みの相談相手(複数選択可、学年別)

	相談していない	学生何でも相談室の職員	学生相談窓口の職員	大学のその他の事務職員	大学のハラスメント相談員	大学の教員	保健管理センターの職員	家族	友人	恋人	先輩、知人	学外の相談窓口	その他
全体	24.2	0.7	0.5	0.4	0.3	4.5	0.8	52.8	61.5	10.8	16.7	0.3	3.5
学部1年	27.6	0.4	0.4	0.4	0.0	0.6	0.0	51.4	61.9	8.4	15.0	0.1	3.3
学部2年	22.0	1.2	0.3	0.3	0.6	2.0	1.2	54.9	61.8	6.9	19.1	0.6	3.8
学部3年	26.5	1.0	0.8	0.0	0.3	4.5	1.3	51.8	60.8	12.5	18.3	0.0	3.0
学部4年	22.1	0.9	0.5	0.0	0.0	8.6	0.9	52.7	62.2	14.9	13.5	0.0	2.7
学部5年、6年	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0	66.7	77.8	25.9	22.2	3.7	3.7
修士課程	18.1	0.0	1.3	1.9	0.6	15.0	1.9	50.6	59.4	16.3	18.8	1.3	3.8
博士課程	9.7	0.0	0.0	0.0	3.2	16.1	0.0	67.7	41.9	19.4	19.4	0.0	12.9
専門職課程	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	0.0	61.5	84.6	7.7	7.7	0.0	7.7

※表内数値は%

5-3. 相談できる学生の数

授業や学生生活について情報交換をしたり、相談しあったりできる本学の学生はどのくらいいるかを尋ねたところ、「1人もいない」と回答した者の割合は非常に少なく、少なからず1人以上はいると認識している者が多く占めていることがうかがえた。

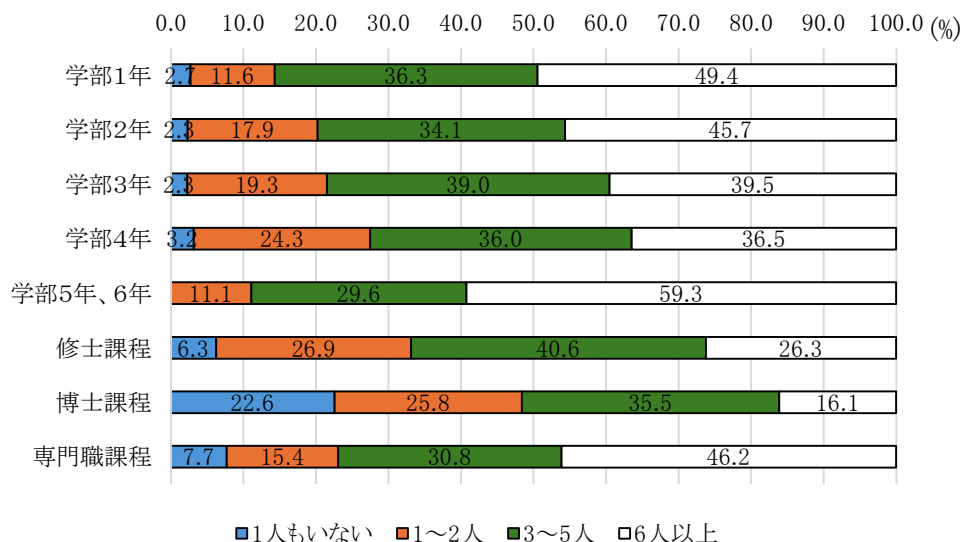


図 5-3 相談できる学生の数

5-4. 相談できる教職員の数

授業や学生生活についてわからないことを尋ねたり、相談したりできる本学の教員や職員はどのくらいいるかを尋ねたところ、学年が上がるにつれて「1人もいない」と回答する者の割合が減る傾向が示されていた。「1人もいない」と回答する者の割合は、学部1年で41.8%、学部2年で30.1%であった。

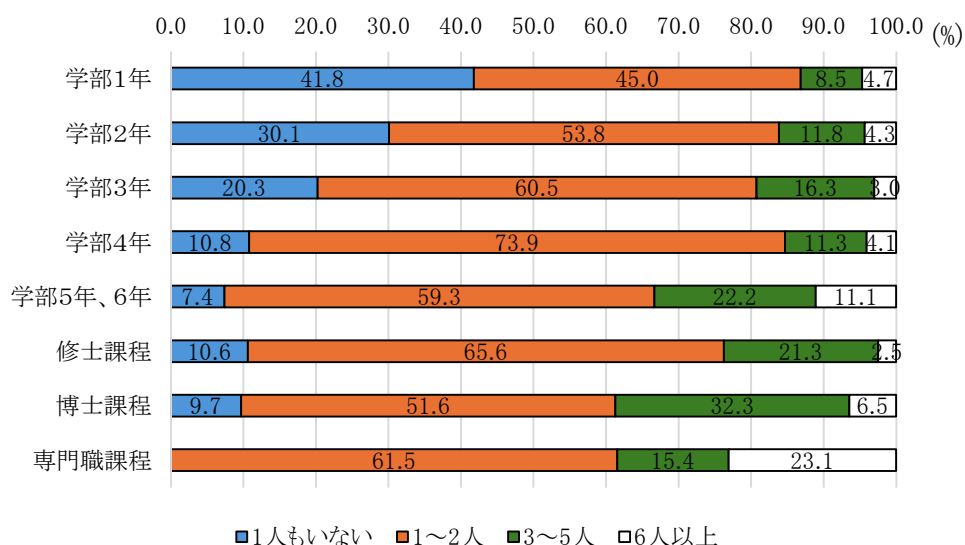


図 5-4 相談できる教職員の数

5-5. 大学入学後に経験したトラブル

大学入学後、学内外でトラブルにあったことがあるかを尋ねたところ、経験したトラブルとして最も多くあがっていたのは「バイト先での金銭や労働条件のトラブル」であった。

「大麻・危険ドラッグなど薬物を勧められた」をあげた者は非常に少なかったものの、学部2年生(2名)が経験したこととしてあげていた。

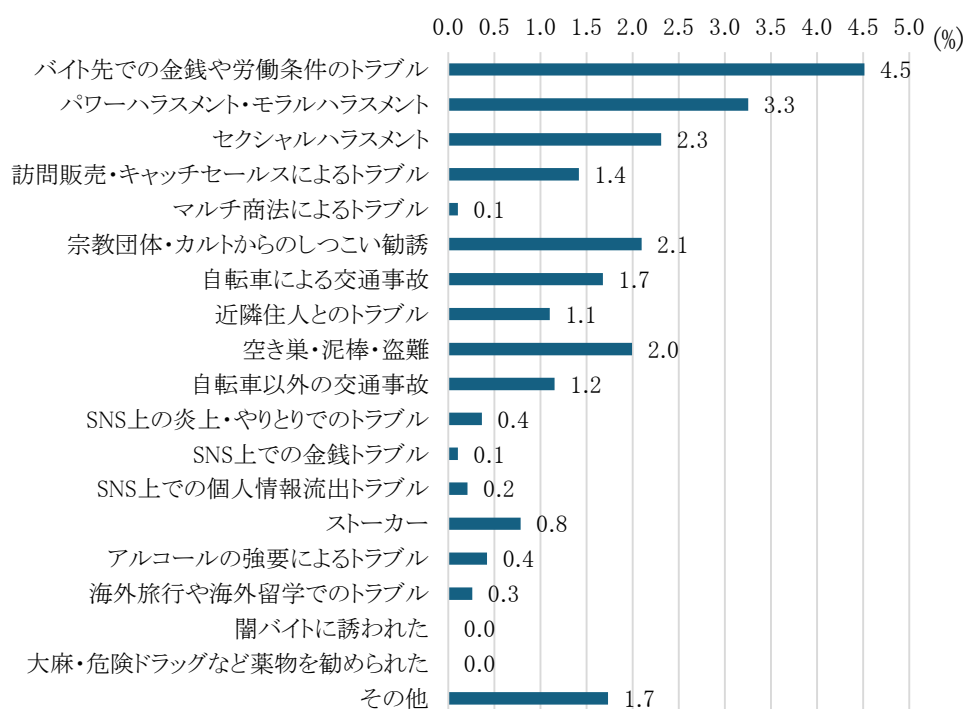


図 5-5 大学入学後に経験したトラブル(複数選択可)

図 5-5 大学入学後に経験したトラブル(複数選択可、学年別)

	バイト先での金銭や労働条件のトラブル	パワーハラスメント・モラルハラスメント	セクシャルハラスメント	訪問販売・キャッチセールスによるトラブル	マルチ商法によるトラブル	宗教団体・カルトからのしつこい勧誘	自転車による交通事故	近隣住人とのトラブル	空き巣・泥棒・盗難	自転車以外の交通事故	SNS上の炎上・やりとりでのトラブル	SNS上での金銭トラブル	SNS上での個人情報流出トラブル	ストーカー	アルコールの強要によるトラブル	海外旅行や海外留学でのトラブル	闇バイトに誘われた	大麻・危険ドラッグなど薬物を勧められた	その他
全体	4.5	3.3	2.3	1.4	0.1	2.1	1.7	1.1	2.0	1.2	0.4	0.1	0.2	0.8	0.4	0.3	0.0	0.0	1.7
学部2年	4.6	2.0	2.9	0.9	0.0	4.0	1.2	0.9	1.4	0.9	0.0	0.6	0.3	1.2	0.3	0.0	0.0	0.6	1.7
学部3年	6.0	5.0	2.5	1.3	0.0	2.3	1.8	1.0	3.3	1.0	0.3	0.0	0.5	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.3
学部4年	5.9	3.6	3.2	3.2	0.5	3.2	4.1	2.7	2.7	3.6	1.4	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	3.2
学部5年、6年	11.1	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
修士課程	6.9	6.3	3.1	1.9	0.0	1.9	3.1	1.3	2.5	1.3	0.6	0.0	0.6	1.3	0.6	1.3	0.0	0.0	1.9
博士課程	0.0	12.9	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
専門職課程	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※表内数値は%

5-6. 本学でハラスメントを受けた経験

本学でハラスメントを受けたと感じたことはあるかを尋ねたところ、多くの回答者が「ない」と回答しており、特に学部生は95%以上が「ない」と回答していた。修士課程、博士課程においては、「ある」と回答した者の割合が一定数いた。

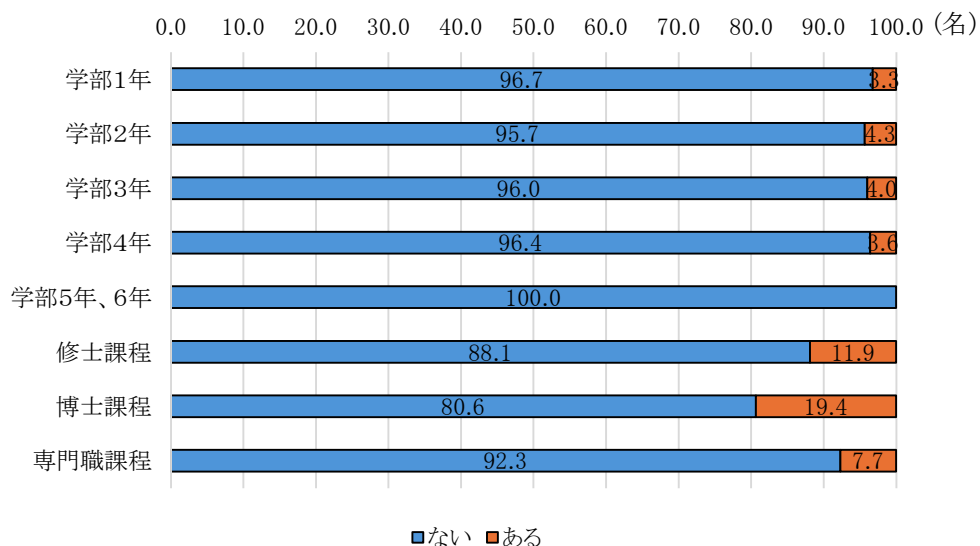


図 5-6 本学でハラスメントを受けた経験の有無

5-7. 学内で経験したハラスメントの種類

本学でハラスメントを受けたことがあると回答した者に対して、どのようなハラスメントだったかを尋ねたところ、その他を除いて、「アカデミックハラスメント」が最も多くあげられていた。

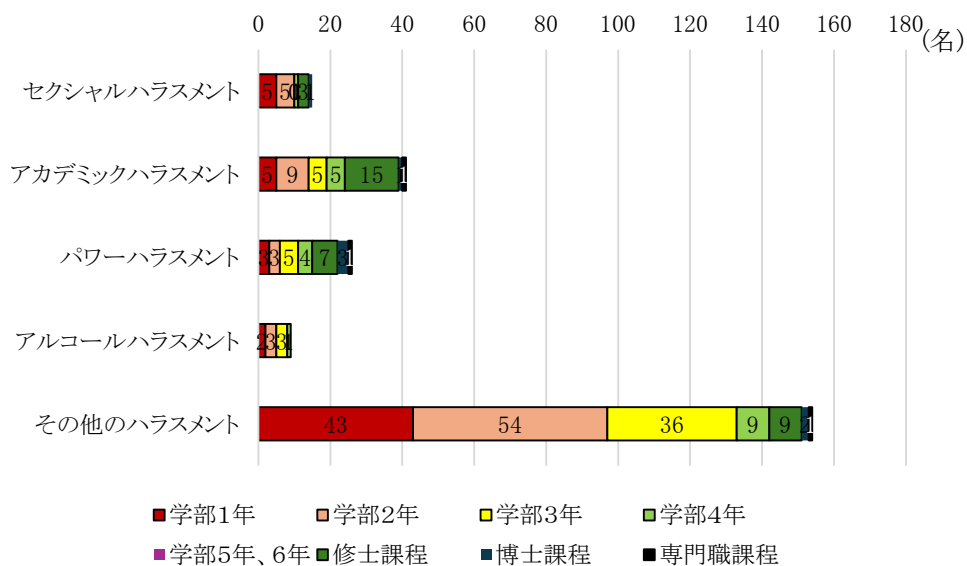


図 5-7 学内で経験したハラスメントの種類(複数選択可)

5-8. 学内で経験したハラスメントの場面

どのような場面で学内のハラスメントを受けたかを尋ねたところ、最も多くあげられていたのは「授業・実習中」、次いで「ゼミや研究活動中」も多くあげられていた。

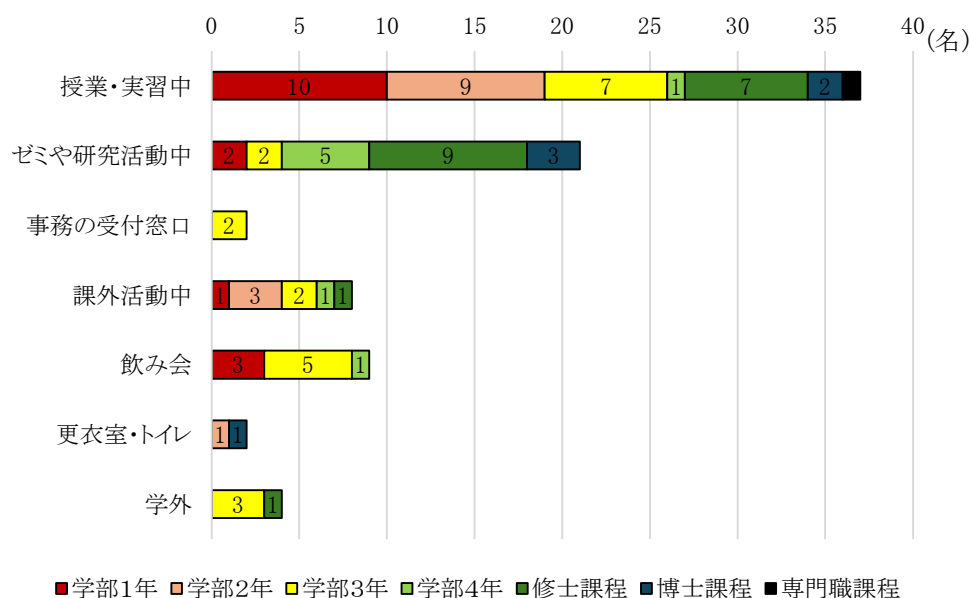


図 5-8 学内で経験したハラスメントの場面(複数選択可)

5-9. 誰からハラスメントを受けたか

どのような人からハラスメントを受けたかを尋ねたところ、最も多くあげられていたのは「教員」であった。次いで、「サークルのメンバー」もあげられていた。

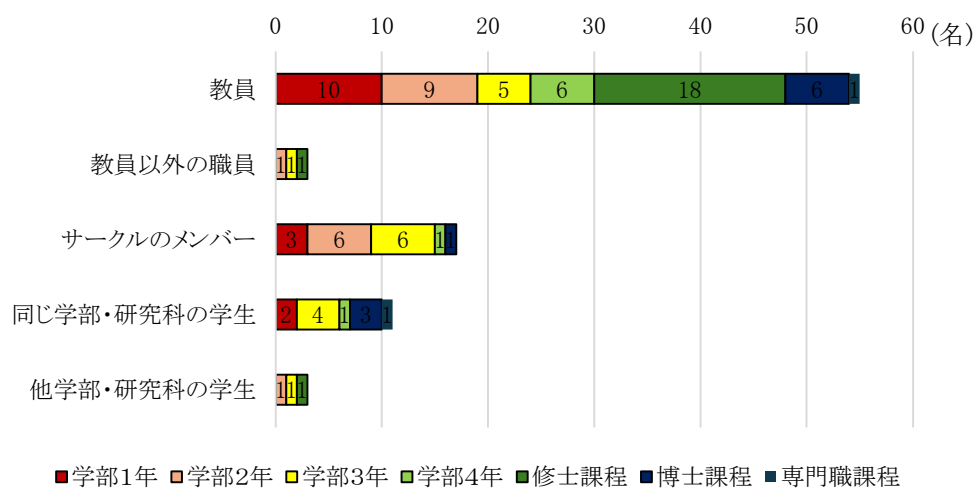


図 5-9 誰からハラスメントを受けたか(複数選択可)

5-10. 相談相手

学内で経験したハラスメントについて誰かに相談したかを尋ねたところ、最も多くあげられていたのは「友人」であった。その次に多かった回答は「相談していない」であった。

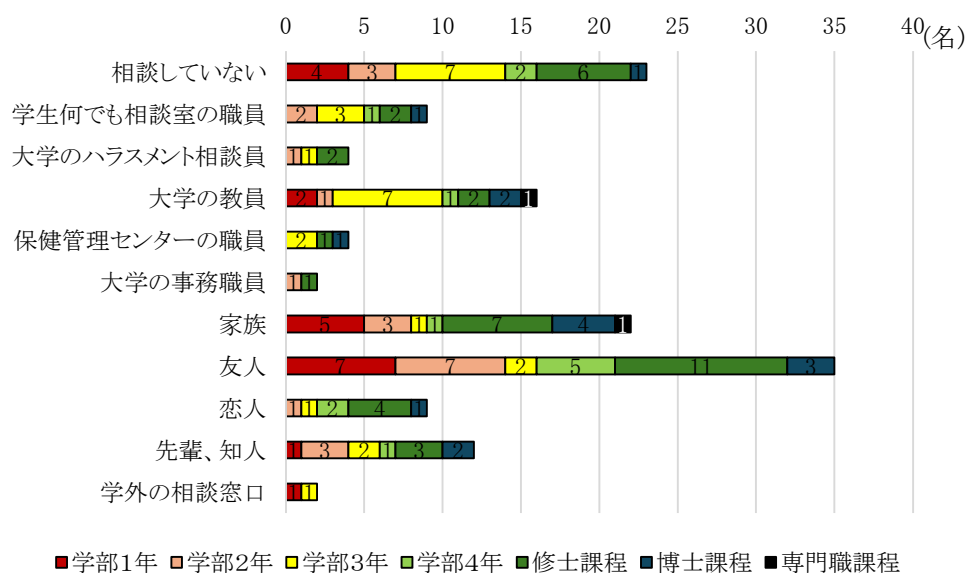


図 5-10 学内ハラスメントに関する相談相手(複数選択可)

5-11. ハラスメントの解決状況

学内で受けたハラスメントは現在解決しているかを尋ねたところ、多くの学年で「解決した」と回答する者が多かったが、博士課程のみ「解決していない」と回答した者の割合の方が多かった。

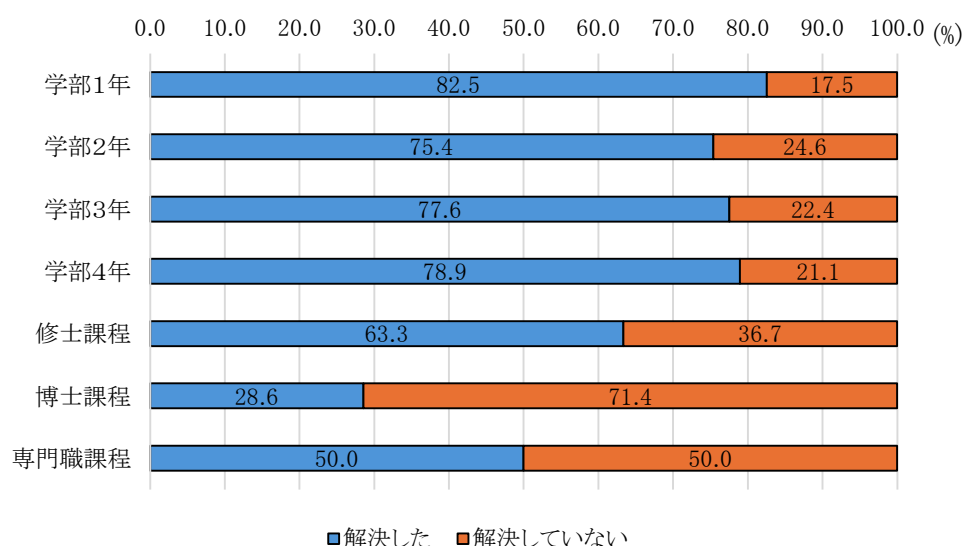


図 5-11 ハラスメントの解決状況